



徳島健康
生活協同組合
徳島
健生
病院

年報

vol.9



2023年度



徳島健生病院年報目次

I 概要		IV 各委員会等活動実績（管理番号順）	
理念と方針 病院の理念/基本方針	2	感染対策委員会	54
民医連綱領	3	医療ガス安全管理委員会	54
医療福祉生協いのちの章典	4	倫理委員会	55
院長挨拶	5	安全衛生委員会	55
病院概要（沿革）	7	医療安全管理対策委員会	56
施設基準	9	注射内服小委員会	56
病院組織図	10	化学療法委員会	57
医師臨床研修概要	11	健診プロジェクト委員会	57
（卒後医師臨床研修・専門医研修プログラム）		システムHP委員会	58
		診療情報管理委員会	58
II 医療経営統計		減点査定委員会	59
1.医療経営統計	14	接遇倫理委員会	59
2.入院統計		薬事委員会	60
退院患者診療科別統計表	15	輸血委員会	60
退院患者診療科別・月別・性別統計表	15	NST委員会	61
診療科別退院疾病中分類（ICD-10）上位表	16	給食委員会	61
手術中分類（ICD-9-CM）男女別統計表	17	臨床検査適正化委員会	62
		褥瘡対策委員会	62
III 各科、各部門活動実績		防災委員会	63
1.診療部門の活動状況		医師研修管理委員会	63
内科・総合診療科	20	無料低額診療委員会	64
外科	21	医師研修委員会	64
整形外科	22	感染対策チーム会議	65
眼科	23	病院組織委員会	65
脳神経外科	24	事業所利用委員会	66
心療内科	25	感染対策推進リーダー会議	66
透析科	26	コーディング委員会	67
		年報編集委員会	67
2.部門の活動状況		医療放射線管理委員会	68
技術部門		看護業務基準委員会	68
外来	27	看護記録委員会	69
3階病棟	28	糖尿病ケアサポート委員会	69
4階病棟	29	糖尿病看護チーム会議	70
5階病棟	30	医療材料委員会	70
別館4階病棟	31	クリティカルパス委員会	71
中材・OP室	32	医療安全推進担当者会議	71
透析室	33	広報チーム会議	72
看護部	34	緩和ケアチーム会議	72
医療安全管理室	36	骨粗鬆症対策チーム会議	73
看護QI室（感染管理・糖尿病看護）	37	教育委員会	73
検査科	38	QI委員会	73
放射線科	39	看護必要度SP委員会	74
リハビリテーション科	40		
食養科	41	V 研究業績	
薬剤科	42	学会発表	76
デイケア室	43	医療介護活動・運動交流集会	77
		看護介護活動研究交流集会	78
保健予防部門		院内全体学習会	80
健診センター	44		
		VI 病院活動	
事務部門		専門的な治療について（専門外来）	82
地域連携相談室	45	病院活動	83
医事課	46	班会講師要請状況	86
庶務課	47	患者会活動	87
医局事務課	48	にじいろ（徳島健生病院だより）	88
システム課	49		
事務部	50	医師名簿（50音順）	93
		部署別資格取得一覧	97
		編集後記（徳島健生病院年報編集委員会）	99

I

概要



徳島健生病院 理念

患者さんとともに安全・安心で信頼される医療を実践します。

徳島健生病院 基本方針

1. いつでもだれでも安心してかけられる病院として、
患者さんのいのちとくらしを守ります。
2. 急性期から慢性期・在宅まで切れ目のない医療を提供し、
患者さんの人生に寄り添います。
3. 地域の人々とともに、健康づくりに取り組みます。
4. ひとりひとりが日々学び、成長し、力を合わせて医療の質
の向上に努めます。
5. 地域の医療機関や施設との連携を強化し、頼りにされる
病院を目指します。

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日

全日本民主医療機関連合会 第39回定期総会

医療福祉生協のいのちの章典

はじめに

日本生活協同組合連合会医療部会は「医療生協の患者の権利章典」「医療生協の介護」を策定し、事業と運動の質を高めてきました。これらの活動を引きつぎ、2010年日本医療福祉生活協同組合連合会（医療福祉生協連）が発足しました。

医療福祉生協は、いのちとくらしを守り健康をはぐくむ事業と運動を大きく広げるため、これらの成果を踏まえ、医療福祉生協連の設立趣意書の内容を基本にして「医療福祉生協のいのちの章典」（いのちの章典）を策定します。

「いのちの章典」は、憲法をもとに人権が尊重される社会と社会保障の充実をめざす、私たちの権利と責任を明らかにしたものです。

医療福祉生協とは

医療福祉生協は、地域のひとびとが、それぞれの健康と生活にかかわる問題を持ちよる消費生活協同組合法にもとづく自治的組織です。医療機関・介護事業所などを所有・運営し、ともに組合員として生協を担う住民と職員の協同によって、問題を解決するための事業と運動を行います。

医療福祉生協が大切にしている価値と健康観

私たちは、近代市民社会の大原則であり、日本国憲法の基本理念である主権在民の立場にたちます。私たちは、憲法13条の幸福追求権や9条の平和主義、25条の生存権を実現するため、主権在民の健康分野の具体化である健康の自己主権を確立します。

私たちが大切にしている健康観は「昨日よりも今日が、さらに明日がより一層意欲的に生きられる。そうしたことを可能にするため、自分を変え、社会に働きかける。みんなが協力しあって楽しく明るく積極的に生きる」というものです。

私たちは、この価値と健康観にもとづき、医療・介護・健康づくりの事業と運動をすすめ、地域まるごと健康づくりをめざします。

いのちとくらしを守り健康をはぐくむための権利と責任

ともに組合員として生協を担う私たち地域住民と職員には、いのちとくらしを守り健康をはぐくむために、以下の権利と責任があります。

<自己決定に関する権利>

私たちは、知る権利、学習権をもとに自己決定を行います。

<自己情報コントロールに関する権利>

私たちは、個人情報保護されると同時に、本人の同意のもとに適切に利用することができるようにします。

<安全・安心な医療・介護に関する権利>

私たちは、安全・安心を最優先にし、そのための配慮やしきみづくりを行います。

<アクセスに関する権利>

私たちは、必要な時に十分な医療・介護のサービスを受けられるように社会保障制度を改善し、健康にくらすことのできるまちづくりを行います。

<参加と協同>

私たちは、主体的にいのちとくらしを守り健康をはぐくむ活動に参加し、協同を強めてこれらの権利を発展させます。

2013年6月7日

日本医療福祉生活協同組合連合会 第3回通常総会

2023年度年報 巻頭言

徳島健生病院 院長 佐々木清美

2023年度、徳島健生病院では望外の嬉しいことが二つありました。

一つ目は、救急医療功労者知事賞をいただいたことです。夜間の患者受け入れと、広域の救急隊からの搬送を受けていること、救急隊の皆様からご評価いただいたことの3点が受賞の決め手になったというお言葉もいただきました。地域を支える、この地になくてはならない病院であり続けたい、そして未来につなげたいという気持ちでやってきた当院の職員一同に対する何よりの激励でした。しかしながら、救急車受け入れについては、ベッド満床や、当直医師1名、看護師1名という限られた条件ゆえにお断りせざるを得ないことも少なくはなく、忸怩たる思いを抱くこともあります。これからも自分達にできることは精一杯対応させていただく所存です。

もう一つは、JCEP（NPO法人 卒後臨床研修評価機構）の審査を受け、秀れた臨床研修病院であるという評価と、エクセレント賞をいただいたことです。この機構は初期臨床研修が適切に行われているかを評価し、次世代を担う研修医を育てていこうという趣旨のもとに活動されています。手前味噌で大変恐縮ですが、初回審査でいきなりエクセレント賞をいただけること自体が非常に珍しいことであると聞きました。身分不相応にも思える高い評価に身が引き締まる思いです。

少子高齢化、人口減少、多死社会、国力の衰退など我が国をめぐる状況が厳しさを増す中で、高齢者は孤立しどんどん追い詰められています。そして、この地に残って医療を支えてほしい医師や看護師をはじめとする専門職が都会に流出していく厳しい側面もあります。

ケアが不可欠な高齢者に対する医療は専門医だけでは成り立たず、高次医療機関と在宅を繋ぐ役割や、ひとりひとりを丸ごと診ることができる仕組みがより一層求められています。いまこそ中小病院の出番と考えます。かけがえのない役割をこれからも果たしていくためには若手医師の育成が不可欠であり、当院の総合診療科後期研修プログラムが絵に描いた餅ではなく実効性のあるものとして稼働できるように、今年度あらためて医師の中で意志統一も行いました。

至らぬことも多々ある中で、これまでも県内外の先生方から学ばせていただいているばかりの私どもが自慢たらしいことを申し上げました。ご寛恕の上、あらためまして、今後とも、忌憚なくご批判、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



徳島健生病院沿革

西暦（年）	月	
1964	7	健生診療所（19床）開設
1966	9	徳島健生病院となる（34床）
1973	5	病院新築（現在地：140床）
	10	労災指定病院認可
1974	2	原爆医療法による認定医療機関許可
1976	10	訪問看護開始
1977	12	健生病院付属診療所開設
1981	11	病院内に訪問看護課開設 二次救急告示医療機関認定
1982	1	重症看護・重症患者収容施設として13床認可
	6	個室増床（許可病床数134床）
1983	7	小児科開設
1984	5	整形外科研修病院認定
	8	19床増床（許可病床数153床）
	11	健生病院付属診療所閉院
1986	1	産婦人科開設
	4	西館竣工（許可病床数252床）
1996	10	人工透析開始
1997	6	デイケア開始
	11	健生小児科クリニック開設
1998	4	眼科開設
	6	健生渭北診療所開設
	12	健生石井病院へ50床分床（許可病床数202床）
1999	8	マンモグラフィー・骨密度測定器導入
2001	2	産婦人科閉科
	7	許可病床数198床
2002	11	許可病床数190床（一般病棟142床 療養48床） MRI導入 総合リハビリテーション開設
2003	4	健生渭北診療所閉院
2004	2	電子カルテ・オーダーリング導入
	10	回復期リハビリテーション病棟開設
	11	臨床研修指定病院許可 敷地内全面禁煙開始
2005	6	二次救急告示取下げ
	10	日本医療機能評価（Ver5）受審
2006	4	許可病床数186床（一般病床138床 回復期48床）
	7	障害者病棟開設（一般病床98床 障害者40床 回復期48床）
	9	病床定員数変更（一般病床101床 障害者37床 回復期48床）
	12	病床定員数変更（一般病床102床 障害者60床 回復期24床）
2009	6	病床定員数変更（一般病床101床 障害者61床 回復期24床） 亜急性期病床取得 10床
	7	64列マルチスライスCT（64列MDCT）導入、PACS導入
2010	12	日本医療機能評価（Ver6）更新
2011	4	二次救急告示再開 無料低額診療事業開始
2012	4	亜急性期病床 15床
2013	3	稼動病床数162床（一般病床101床 障害者37床 回復期24床）
	7	亜急性期病床 10床
2014	10	稼動病床定員数変更（一般病床53床 障害者85床 回復期24床） 亜急性期病床廃止
2015	9	稼動病床数174床（一般病床53床 障害者85床 回復期36床）
	12	日本医療機能評価（3rdG）更新
2016	10	地域包括ケア病床開設 40床 稼動病床174床構成変更 （一般病床53床 障害者45床 回復期36床 地域包括ケア40床）
2017	10	新医事システム稼動
2018	4	脳神経外科開設

西暦(年)	月	
2018	7	回復期病床増床 40床 稼働病床178床構成変更 (一般病床53床 障害者45床 回復期40床 地域包括ケア40床)
	12	回復期病床増床 48床 稼働病床186床構成変更 (一般病床53床 障害者45床 回復期48床 地域包括ケア40床)
2019	6	新病院建設着工
2020	12	新病院建設竣工式 新病院棟開院 稼働病床186床構成変更 (一般病床50床 地域包括ケア60床 回復期48床 障害者28床) 電子カルテバージョンアップ(Newtons2) 80列マルチスライスCT更新 MRI更新 マンモグラフィ(トモシ シス)更新 DR装置導入 一般撮影装置更新 被ばく線量管理シ ム導入
	1	稼働病床186床構成変更 (一般病床50床 地域包括ケア60床 回復期48床 療養28床)
2021	1	別館リニューアル工事着工
	8	別館リニューアル完成(医局・管理室・庶務課移転)
2022	1	日本医療機能評価(3rdG:Ver.2.0)更新
	7	訪問リハビリテーション開始
2023	11	NPO法人卒後臨床研修評価機構訪問調査

施設基準

基本診療料

機能強化加算	感染対策向上加算2 連携強化加算 サーベイランス強化加算
一般病棟入院基本料	後発医薬品使用体制加算1
療養病棟入院基本料1	病棟薬剤業務実施加算1
臨床研修病院入院診療加算	データ提出加算2 ロ (200床未満) 提出データ評価加算
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	入退院支援加算1 入院時支援加算 地域連携診療計画加算
診療録管理体制加算2	認知症ケア加算 (加算3)
医師事務作業補助体制加算2 (40対1および50対1)	せん妄ハイリスク患者ケア加算
急性期看護補助体制加算 (25対1)	回復期リハビリテーション病棟入院料1
重症者等療養環境特別加算	地域包括ケア病棟入院料1 看護職員配置加算 (50対1)
療養病棟療養環境加算2	看護処遇改善評価料37
医療安全対策加算2 医療安全対策地域連携加算2	

特掲診療料

外来栄養食事指導料1	大腸CT撮影加算
導入期加算1	外来化学療法加算1
糖尿病合併症管理料	無菌製剤処理料
がん性疼痛緩和指導管理料	脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算
糖尿病透析予防指導管理料	運動器リハビリテーション料 (I) 初期加算
二次性骨折予防継続管理料1	呼吸器リハビリテーション料 (I) 初期加算
二次性骨折予防継続管理料2	処置の休日加算1 処置の時間外加算1 処置の深夜加算1
二次性骨折予防継続管理料3	人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合1)
小児科外来診療料	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
夜間休日救急搬送医学管理料	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
救急搬送看護体制加算2 (夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる)	手術の休日加算1 手術の時間外加算1 手術の深夜加算1
外来リハビリテーション診療料	後縦靭帯骨化症手術 (前方進入によるもの)
外来腫瘍化学療法診療料 連携充実加算	椎間板内酵素注入療法
ニコチン依存症管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2
がん治療連携指導料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。)
肝炎インターフェロン治療計画料	胃瘻造設術 (通則16)
薬剤管理指導料	輸血管理料II
電子的診療情報評価料	輸血適正使用加算
医療機器安全管理料1	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
別添1の「第14の2」の1の(2)に規定する在宅療養支援病院 (強化型連携型)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
在宅時医学総合管理料 施設入居時等医学総合管理料	麻酔管理料 (I)
在宅患者訪問褥瘡管理指導料	
BRCA1/2遺伝子検査	
検体検査管理加算 (I)	
検体検査管理加算 (II)	
ロービジョン検査判断料	
コンタクトレンズ検査料1	
センチネルリンパ節生検 (単独)	
CT透視下気管支鏡検査加算 (マルチスライスCT <64列以上>)	
CT撮影及びMRI撮影 MRI (1.5テスラ以上3テスラ未満)	
16列以上64列未満のマルチスライスCT	

食事療養費・生活療養費

入院時食事療養 (I) ・入院時生活療養 (I) 食堂加算

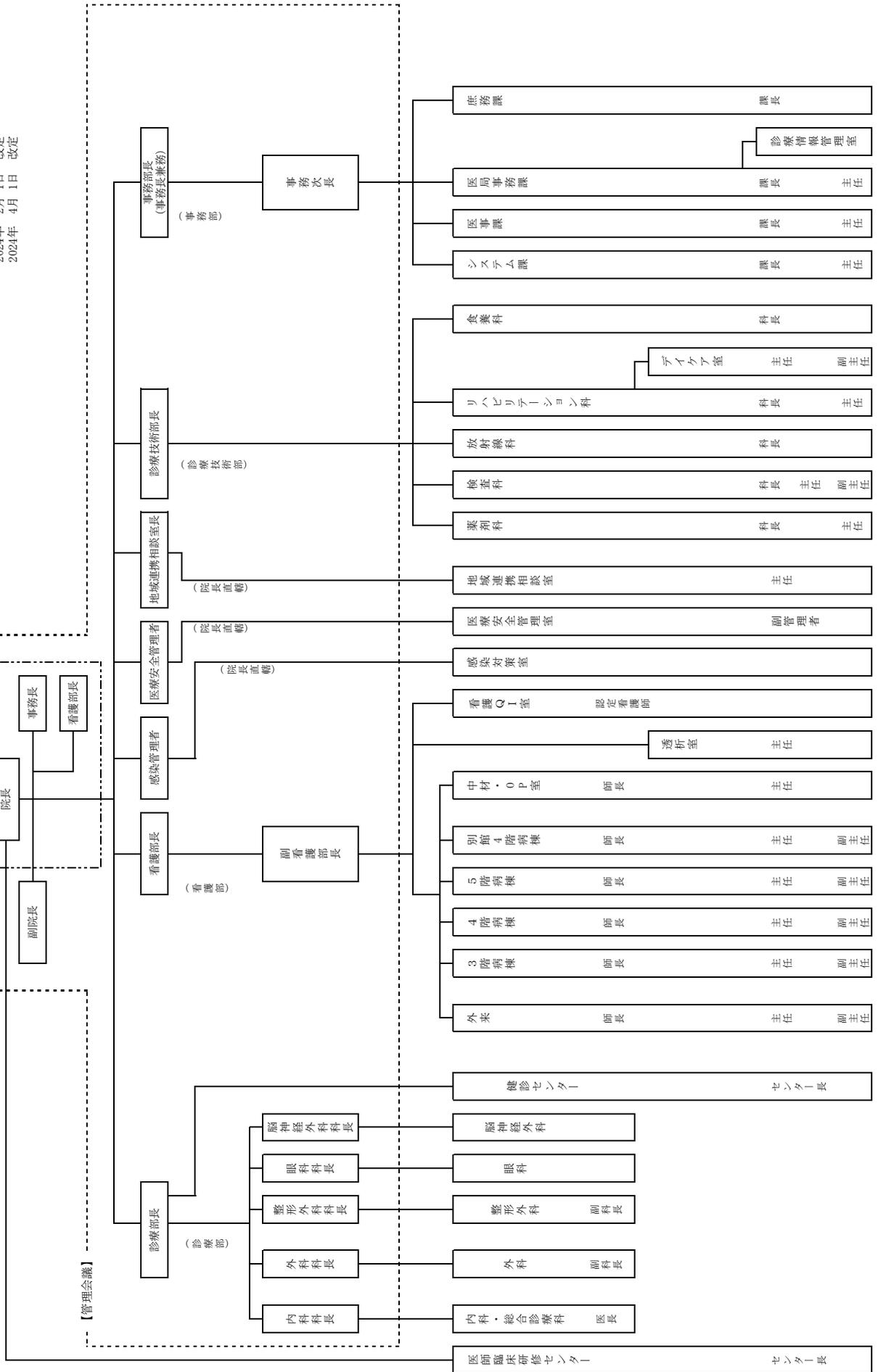
その他の届け出

酸素の購入価格に関する届出

徳島健生病院 組織図

研修医は医師臨床研修センターに所属する

2022年 4月 1日 現在
 2022年 7月 13日 改定
 2022年 11月 1日 改定
 2024年 2月 1日 改定
 2024年 4月 1日 改定



医師臨床研修概要

●卒後医師臨床研修

プログラム名【徳島健生病院卒後臨床研修プログラム】

< 臨床研修の理念 >

医師が、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野に関わらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につける。

< 目的 >

- ・徳島健康生活協同組合での医療活動を担える医師や、将来専門とする分野に関わらず様々なフィールドで活躍できる医師の養成を目指す
- ・入院・外来・救急・在宅医療といった第一線医療の中で幅広い問題解決能力を持ち、人間性にあふれ、患者の抱える問題を身体的・心理的、生活や社会的背景も含めて受け止められる医師の養成を目指す
- ・患者やその家族との十分なコミュニケーションの下に総合的な診療をおこなえる医師の養成を目指す
- ・徳島健康生活協同組合の組合員との共同による予防医学にとどまらず、健康で暮らしやすいまちづくりに取り組む医師の養成を目指す
- ・医師としてのプロフェッショナルリズムの遂行に必要な資質と能力を身につけることを目指す

< 研修の特徴 >

- ・ローテート研修
- ・各診療科の医師に常に相談できる研修環境
- ・看護師をはじめ多職種と協力するチーム医療研修
- ・患者さんの身体的・心理的問題や社会背景も含めた全人的アプローチを学ぶ研修
- ・入院から在宅までつながりのある研修
- ・患者会や組合員への医療学習会を通じて地域にも育まれる研修
- ・研修医自らが参加して作り上げる研修

卒後臨床研修医在籍状況（当院のプログラムで研修した数のみ）

	1年次	2年次		1年次	2年次
2004年度	1	—	2013年度	—	1
2005年度	1	—	2016年度	1	—
2006年度	1	1	2017年度	1	1
2007年度	2	1	2018年度	1	1
2008年度	1	2	2019年度	—	1
2009年度	—	1	2021年度	1	—
2010年度	1	—	2022年度	1	—
2011年度	—	1	2023年度	2	1
2012年度	1	—			

第三者評価受審歴

受審年度	調査機関名
2011年度	中国四国厚生局 健康福祉部医事課
2013年度	中国四国厚生局 健康福祉部医事課
2017年度	中国四国厚生局 健康福祉部医事課
2019年度	中国四国厚生局 健康福祉部医事課
2023年度	徳島県 保健福祉部医療政策課
	NPO法人卒後臨床研修評価機構

●専門研修

<専門研修プログラムの特徴>

病院、診療所などで活躍する総合診療専門医を基本領域として、さらに質の高い診断・治療能力を持ち、地域でリーダーシップを発揮できる病院総合医、家庭医療専門医を養成する。

二次救急も担い地域を支えていく中で、絶えざる自己研鑽を重ねながらキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的としている。

基本領域名：総合診療

研修期間 3年

プログラム名【徳島健生病院 総合診療専門研修プログラム】

<プログラムの概要>

医療生協の病院である当院を基幹施設とし、災害拠点病院や地域医療支援院である徳島県立中央病院や診療所を専門研修連携施設とした研修施設群で行われる。

①総合診療専門研修Ⅰ（外来・在宅）②総合診療専門研修Ⅱ（病棟・救急）③内科④小児科⑤救急科の5つの必須診療科と選択診療科で3年間の研修を行う。

医療生協という組織基盤を活用し、地域住民や生協組合員の皆様の協力により、医療者・患者・利用者の視点から研修をすすめ、“地域まるごと健康”を目指す。

<研修目標>

日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と継続的で包括的なケアを、個人・家族・地域に提供できるようになる。そして、地域の要求を踏まえた疾病の予防、介護、看取りなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する。

サブスペシャリティ領域名：家庭医療

研修期間 2年

プログラム名【徳島健生病院 家庭医療専門医研修プログラム】

<プログラムの概要>

①家庭医療専門研修Ⅰ（診療所・小病院中心）②家庭医療専門研修Ⅱ（病院中心）に分かれており、継続的ケアの経験を担保することを目的として12ヶ月以上連続して同一の施設で研修する。

・総合診療専門医取得後に、本研修プログラムに登録する場合2年間の研修が必要。総合診療専門研修と合わせて5年で家庭医療専門医の受験資格を獲得することになる。

・当院の総合診療専門プログラムの研修開始と同時に、本研修プログラムにも研修登録をしたら4年で家庭医療専門医の受験資格を獲得することが可能。

個々の患者の健康だけでなく、その家族や地域の“健康で明るい町づくり”に資する家庭医療専門医、プライマリ・ケア医を育成する。

<研修目標>

かかりやすさと継続性に基づく患者中心の医療を重視しつつ、エビデンスに基づいた質の高い診療を実践し、ケアに関わる様々な職種や家族と連携して、年齢・性別・疾患・社会背景・診療の場などを問わない包括的・統合的なケアを提供できる家庭医療専門医を目指す。

II

医療経営統計

1

医療経営統計

2

入院統計



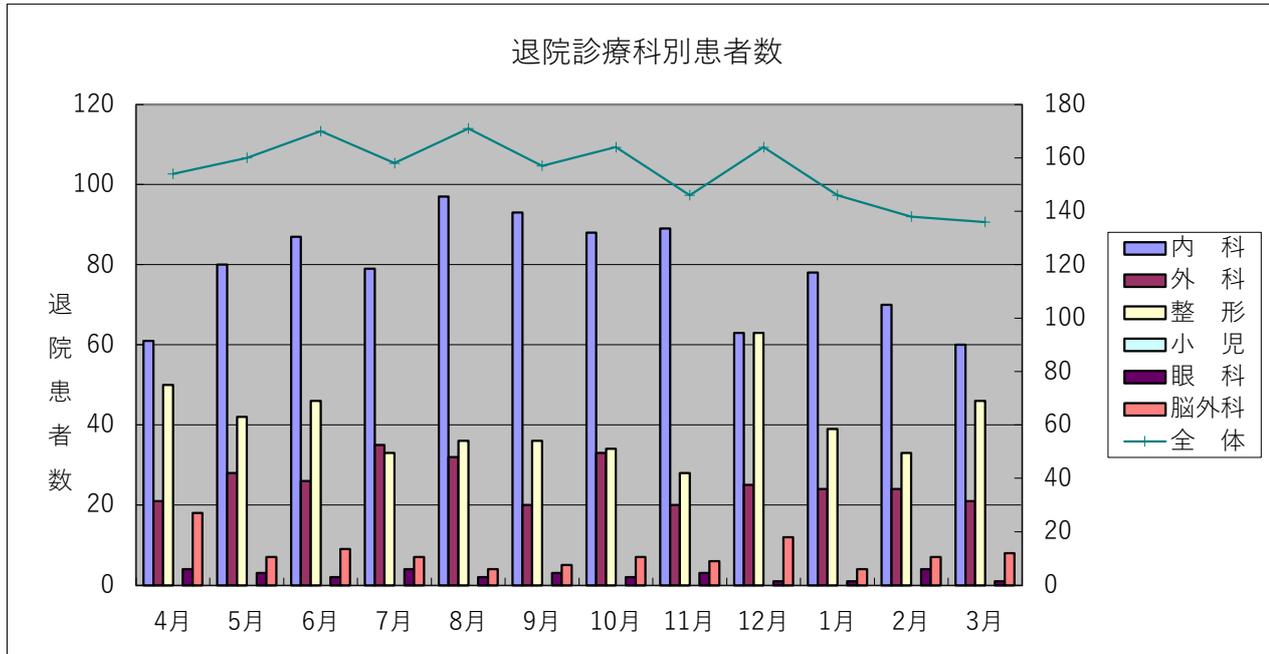
医療経営統計

項目名		2022年度	2023年度
		月平均	月平均
急性期一般病棟（10対1）	届出病床数	50	50
	入院件数	142	145
	入院数	102	104
	退院数	101	104
	延患者数	1,318	1,410
	1日患者数	39.9	42.7
	平均在院日数（単月）	11.6	12.2
	入院点数（千点）	7,788	8,285
	日当点	5,909	5,868
	件当点	55,041	57,201
地域包括ケア病棟	届出病床数	60	60
	入院件数	115	119
	入院数	68	72
	退院数	65	71
	延患者数	1,524	1,576
	1日患者数	48	49
	平均在院日数（単月）	22	21
	入院点数（千点）	5,507	5,564
	日当点	3,615	3,531
	件当点	48,666	46,919
回復期リハビリ病棟	届出病床数	48	48
	入院件数	68	71
	入院数	23	26
	退院数	23	26
	延患者数	1,426	1,433
	1日患者数	46.0	46.0
	平均在院日数（単月）	61.9	55.3
	入院点数（千点）	4,951	4,892
	日当点	3,471	3,416
	件当点	72,705	68,841
療養病棟	届出病床数	28	28
	入院件数	33	35
	入院数	6	7
	退院数	9	10
	延患者数	839	841
	1日患者数	27	27
	平均在院日数（単月）	120	104
	入院点数（千点）	1,736	1,715
	日当点	2,070	2,039
	件当点	50,933	49,341

項目名		2022年度	2023年度
		月平均	月平均
外来	外来件数	3,374	3,203
	延患者数	4,820	4,869
	1日患者数	196.1	198.7
	新患者数	171	119
	初診患者数	498	440
	外来点数（千点）	6,875	6,498
	日当点	1,426	1,335
	時間外受入患者数（再掲）	185	145
	時間外新患者数（再掲）	79	54
	時間外初診患者数（再掲）	129	94
	救急搬入患者数（再掲）	106	109
	救急搬入新患者数（再掲）	58	61
	救急搬入入院患者数	31	38
	訪問診療	訪問診療件数	23
訪問診療点数（千点）		123	103
件当点		5,507	5,428
透析	透析 件数	25	24
	透析 延患者数	290	265
手術	手術室 手術件数（総件数）	852	846
	外科 入院（再掲）	219	205
	外科 外来（再掲）	27	27
	整形外科 入院（再掲）	487	487
	整形外科 外来（再掲）	37	28
	眼科 入院（再掲）	32	28
放射線	眼科 外来（再掲）	50	71
	CT（CTC含む）	388	412
	大腸CT	20	17
	MRI	213	231
	一般	1,057	1,150
	骨密度	247	245
	マンモグラフィー	51	52
リハビリテーション	X線TV（造影）	16	17
	PT（入院）	6,149	5,758
	OT（入院）	3,287	2,952
	ST（入院）	884	864
	PT（外来）	3	13
	OT（外来）	0.0	2.6
	ST（外来）	0.0	0.0
	【再掲】		
	PT 脳血管（入院）	1,537	1,246
	脳血管（外来）	0	11
	運動器（入院）	4,029	3,903
	運動器（外来）	2	2
	呼吸器（入院）	169	252
	呼吸器（外来）	0	0
廃用（入院）	414	323	
OT 脳血管（入院）	1,649	1,395	
脳血管（外来）	0.00	2.60	
運動器（入院）	1,584	1,546	
運動器（外来）	0	0	
呼吸器（入院）	16	29	
呼吸器（外来）	0	0	
廃用（入院）	37	34	
ST 脳血管（入院）	842	834	
脳血管（外来）	0	0	
呼吸器（入院）	15	18	
廃用（入院）	22.0	8.0	
摂食機能（入院）	20	24	
摂食機能（外来）	0	0	

退院患者診療科別統計表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	科別計
内科	61	80	87	79	97	93	88	89	63	78	70	60	945
外科	21	28	26	35	32	20	33	20	25	24	24	21	309
整形	50	42	46	33	36	36	34	28	63	39	33	46	486
小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	4	3	2	4	2	3	2	3	1	1	4	1	30
脳外科	18	7	9	7	4	5	7	6	12	4	7	8	94
全体	154	160	170	158	171	157	164	146	164	146	138	136	1,864



退院患者統計表 (診療科別・月別・性別)

	内科		外科		整形外科		小児科		眼科		脳神経外科		総数	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総数	458	487	148	161	158	328	0	0	6	24	43	51	813	1051
4月	30	31	15	6	15	35	0	0	2	2	10	8	72	82
5月	37	43	7	21	7	35	0	0	0	3	3	4	54	106
6月	43	44	14	12	18	28	0	0	0	2	3	6	78	92
7月	39	40	11	24	12	21	0	0	1	3	5	2	68	90
8月	46	51	12	20	9	27	0	0	0	2	3	1	70	101
9月	40	53	12	8	14	22	0	0	0	3	3	2	69	88
10月	44	44	18	15	13	21	0	0	0	2	5	2	80	84
11月	41	48	11	9	8	20	0	0	2	1	2	4	64	82
12月	34	29	11	14	26	37	0	0	1	0	3	9	75	89
1月	44	34	13	11	11	28	0	0	0	1	2	2	70	76
2月	36	34	15	9	11	22	0	0	0	4	1	6	63	75
3月	24	36	9	12	14	32	0	0	0	1	3	5	50	86
死亡	42	38	19	21	1	0	0	0	0	0	0	4	62	63
剖検	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

診療科別退院疾病中分類 (ICD-10) 上位表

※疾病,傷害および死因統計分類提要ICD-10準拠 第2巻 (内容例示表) で表記しています

診療科	順位	ICD-10	病名	件数
内科	1	D12	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	74
	2	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	72
	3	I50	心不全	50
	4	E11	インスリン非依存性糖尿病<NIDDM>	44
	5	J69	固形物および液状物による肺臓炎	32
		N39	尿路系のその他の障害	32
	7	J18	肺炎、病原体不詳	31
	8	M62	その他の筋障害	28
		U07	COVID-19	26
	9	L03	蜂巣炎	24
	10	H81	前庭機能障害	21
	11	I63	脳梗塞	20
		N10	急性尿細管間質性腎炎	20
	13	N18	慢性腎不全	19
	14	A09	感染症と推定される下痢および胃腸炎	17
	15	Z03	疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	16
	16	E87	その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害	15
	17	T67	熱および光線の作用	14
18	—	168件以下 略	390	
	小計		945	
外科	1	I84	痔核	31
	2	D12	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	27
	3	K80	胆石症	26
	4	K40	そけい<崟径>ヘルニア	23
	5	C18	結腸の悪性新生物	22
	6	C34	気管支および肺の悪性新生物	12
		S72	大腿骨骨折	12
	8	C16	胃の悪性新生物	11
		K35	急性虫垂炎	11
	10	C20	直腸の悪性新生物	10
		C25	膵の悪性新生物	10
		C50	乳房の悪性新生物	10
	13	K56	麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	7
	14	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	5
		L03	蜂巣炎	5
	16	K57	腸の憩室性疾患	4
		K60	肛門部および直腸部の裂(溝)および瘻(孔)	4
		L89	じょく<褥>瘡(性)潰瘍	4
		M48	その他の脊椎障害	4
	20	—	64件以下 略	71
	小計		309	
整形外科	1	S72	大腿骨骨折	95
	2	S32	腰椎および骨盤の骨折	89
	3	M48	その他の脊椎障害	81
	4	M17	膝関節症[膝の関節症]	27
	5	T84	体内整形外科的プロステシス、挿入物および移植片の合併症	24
	6	S22	肋骨、胸骨および胸椎骨折	23
	7	M47	脊椎症	13
	8	S82	下腿の骨折、足首を含む	12
	9	S52	前腕の骨折	10
	10	S42	肩および上腕の骨折	9
	11	M05	血清反応陽性関節リウマチ	7
	11	M16	股関節症[股関節部の関節症]	7
	11	M51	その他の椎間板障害	7
	14	M54	背部痛	5
	15	M11	その他の結晶性関節障害	4
	16	—	42件以下 略	73
	小計		486	
眼科	1	H25	老人性白内障	26
	2	H11	結膜のその他の障害	2
	3	—	2件以下 略	2
	小計		30	
脳神経外科	1	I63	脳梗塞	40
	2	I61	脳内出血	21
	3	S06	頭蓋内損傷	7
	4	C71	脳の悪性新生物	4
	4	G91	水頭症	4
	4	I62	その他の非外傷性頭蓋内出血	4
	7	—	10件以下 略	14
	小計		94	
合計				1,864

手術中分類（ICD-9-CM）男女別統計表

※ICD-9-CM 手術および処置の分類 2003 日本病院会版で表記しています

ICD-9-CM	術 名	男	女	総 数
03	脊髄および脊柱管構造物の手術	22	18	
04	脳神経および末梢神経の手術	0	2	
08	眼瞼の手術	0	2	
10	結膜の手術	0	1	
11	角膜の手術	0	2	
12	虹彩，毛様体，強膜および前眼房の手術	0	1	
13	水晶体の手術	6	21	
31	喉頭および気管のその他の手術	1	1	
38	血管の切開術，切除術および閉塞術	15	10	
39	血管のその他の手術	4	3	
40	リンパ系の手術	1	0	
43	胃の切開術および切除術	12	14	
44	胃のその他の手術	0	1	
45	腸の切開術，切除術および吻合術	52	57	
46	腸のその他の手術	3	3	
47	虫垂の手術	5	2	
48	直腸，直腸S状結腸および直腸周囲組織の手術	4	4	
49	肛門の手術	10	28	
51	胆嚢および胆道の手術	24	16	
53	ヘルニアの修復術	20	9	
54	腹部のその他の手術	6	2	
57	膀胱の手術	1	0	
77	その他の骨の切開術，切除術および切離術	0	4	
78	顔面骨以外の骨のその他の手術	68	136	
79	骨折および脱臼の修復術	24	62	
80	関節構造物の切開術および切除術	3	2	
81	関節構造物の修復術および形成術	42	97	
82	手の筋，腱および筋膜の手術	2	1	
83	手以外の筋，腱，筋膜および滑液包の処置	1	1	
84	筋骨格系のその他の処置	1	1	
85	乳房の手術	0	9	
86	皮膚および皮下組織の手術	27	21	
合 計		354	531	
				885

III

各科、各部門活動実績

1

診療部門の活動状況

2

部門の活動状況

- 1 技術部門
- 2 保健予防部門
- 3 事務部門

内科・総合診療科

医師体制

- 副院長 松田知子
- 医局長 岸田典子
- 科長 今井正雄
- 医長 阿部潤一 山下英世
村野栄一
- 医員 古川民夫 田中宏美
中野万有里 門田美由香
- 研修医 鈴木耕一郎
渡部京介 原田玄奈
- 非常勤医 吉田全夫 堀内宏美
大倉佳宏 遠藤健
森敬子 吉田勇人



2023年度 診療概要

- 1)内科医師全員がgeneralist + subspecialistとして診療
- 2)急性疾患ほか、糖尿病・高血圧症・高脂血症などの慢性疾患管理
- 3)糖尿病などの教育入院
- 4)糖尿病の患者会活動支援
- 5)外来診療・病棟診療・リハビリテーション指示・在宅訪問診療
- 6)発熱外来

<体制>

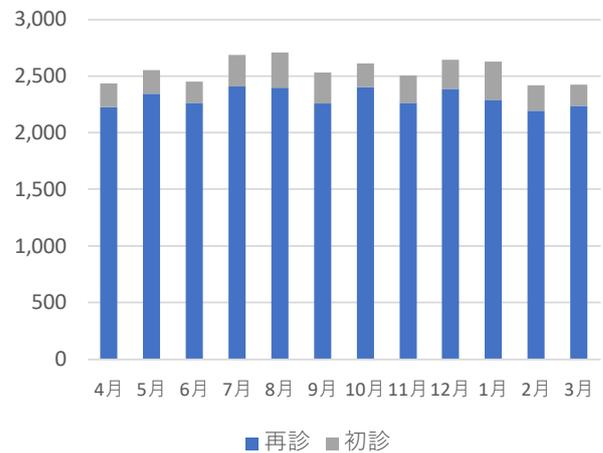
外来診療 月～土 午前
月～金 午後
火～木 夜間
睡眠時無呼吸外来 木曜日午後
禁煙外来 木曜日午後
呼吸器外来 水曜日午後
上部消化管内視鏡検査・大腸ショート
月～土(金以外)
大腸内視鏡検査 月・水

<情報共有>

地域包括ケア病床カンファレンス 1回/週
病棟カンファレンス 1回/週
外来新患カンファレンス 1回/週
在宅カンファレンス 1回/週
内科医会 1回/週

診療実績

内科・総合診療科患者数(2023.4-2024.3)



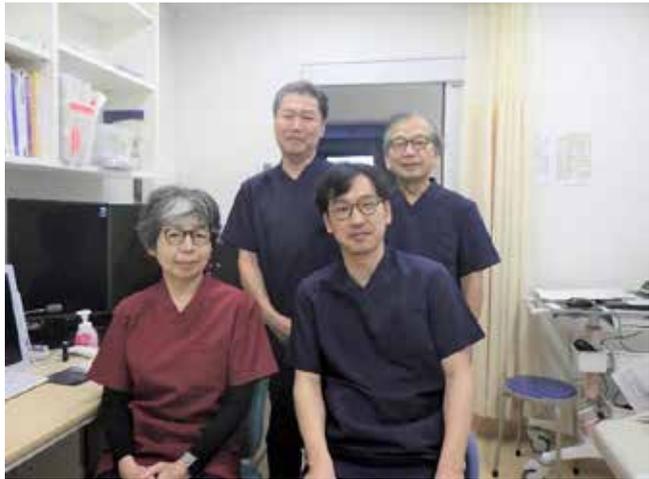
内視鏡件数

		件数	総件数
胃カメラ	経口	281件	1,595件
	経鼻	1,314件	
大腸カメラ	ショート	75件	135件
	ロング	60件	

外科

医師体制

- 院長 佐々木清美
- 科長 美馬一正
- 医長 美馬惇
- 嘱託医 吉田禎宏



2023年度 診療概要

1) 診療

(1) 外科医師体制

4名体制(前年度と変更なし)

(2) 手術総数

手術総数は前年度より微増した

(3) 乳がん検診

乳がん検診数は前年度より6件減少した。がん発見率は増加した

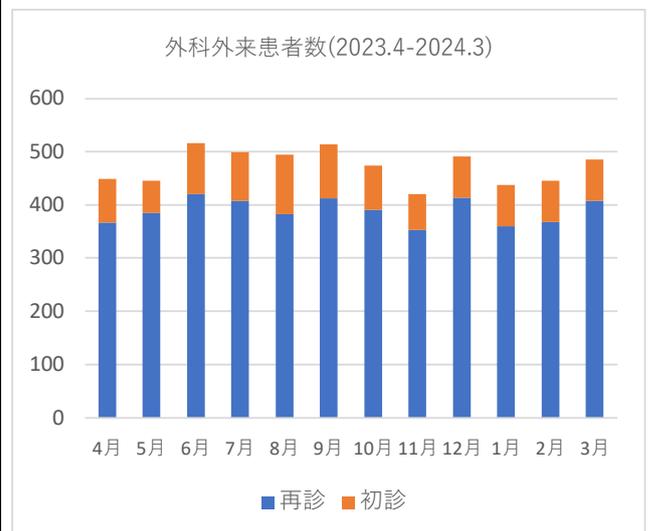
2) 備考

当院外科では胃がん・結腸がん・乳がん・肛門疾患・胆石症・ヘルニア・腸閉塞など一般外科領域の範疇で診療にあたっている

2023年度からは Reduced Port Surgery を積極的に導入しており、虫垂切除術/胆嚢摘出術/そけい部ヘルニア手術に関しては TANKO-POP を原則としている

臍ヘルニアや腹壁癒痕ヘルニアに対してはトレンドに乗り eTEP も行っている

診療実績



手術実績 (2023.4~2024.3) 手術件数 239 例

主な手術部位	症例数
乳房 (乳がん)	1 (7)
虫垂炎 (鏡視下)	0 (7)
胆道 (鏡視下)	3 (34)
胃 (悪性)	16 (1)
腸閉塞	3
結腸・直腸 (鏡視下)	7 (13)
肛門	38
小腸・結腸	2
ヘルニア (鏡視下)	5 (26)

乳がん検診の内訳と推移

	2021年度	2022年度	2023年度
乳がん検診	670件	630件	624件
要精査率	10.3%	10.8%	8.3%
がん発見率	0.44%	0.79%	3.80%

整形外科

医師体制

- 科長 峯田和明
- 医師 岡田正彦 鎌田光洋
- 非常勤医 松本壮司



2023年度 診療概要

1) 診療

- (1) 整形外科全般を診断、保存療法、手術療法、リハビリテーションを一貫して行っている
- (2) 変性疾患(関節症、脊椎症、関節リウマチ)を主に、外傷疾患を積極的に取り入れ診療を展開した
- (3) 多職種で関わるプロジェクトチームによるチーム会議を定期的に行い、骨粗鬆症専門外来を開設し、骨粗鬆症に対する骨折予防の治療に尽力している
- (4) 骨粗鬆症に対する骨折予防のため意欲的に検査、治療に取り組むことから、医療福祉生協としての地域への関わりに重点を置く
- (5) 患者の早期離床およびADLの早期改善のため、積極的に経皮的椎体形成術(BKP)を実施
2022年度：95件 2023年度：99件
- (6) 特に脊椎の手術に力を入れており、徳島市内でも中心的な役割を担っている

2) 教育研修活動及び学術活動

学会発表

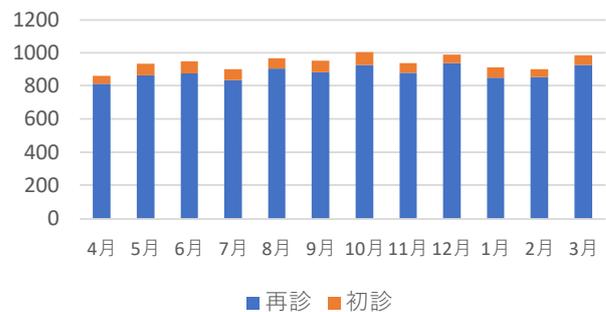
- 2023年 9月 第25回骨粗鬆症学会 口演
「当院におけるロモソズマブ治療後のデノスマブによる逐次療法の成績」 峯田和明
- 2023年12月 第56回中国・四国整形外科学会 口演
「当院におけるexpandable interbody cageの使用経験」 峯田和明
- 2024年2月 第54回日本人工関節学会 口演
「当院におけるbipolar hip prosthesis の治療成績：早期手術と骨粗鬆症治療の重要性についての検討」 峯田和明

講演会

- 2023年6月 骨粗鬆症治療WEBセミナー
「当院におけるロモソズマブの使用経験と逐次治療について」 峯田和明
- 2023年8月 徳大脊椎外科カンファレンス
「当院におけるBKPの治療経験」 峯田和明
- 2024年1月 第三回大腿骨骨折治療ネットワーク研究会
「大腿骨骨折周術期における骨粗鬆症治療」 峯田和明

診療実績

整形外科外来患者数(2023.4-2024.3)



手術実績 (2023.4~2024.3)

主な術式	症例数
骨折観血的手術	77
人工関節置換術	43
人工骨頭置換術	34
脊椎固定・脊椎手術	62
椎弓切除術・形成術	48
経皮的椎体形成術(BKP)	99

眼科

医師体制

- 科長 西内貴子
- 非常勤医 佐藤志乃

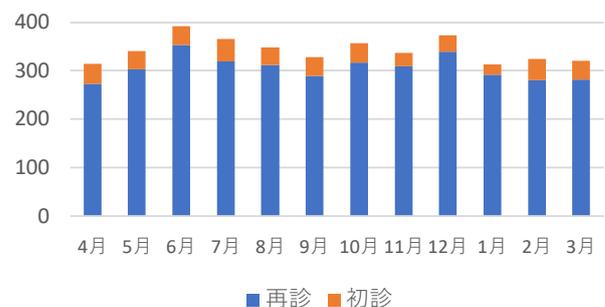


2023年度 診療概要

- 1)眼科一般診療、治療を行っている
コンタクトレンズ診療を行っている
- 2)外来・入院ともに他科からの眼部症状や全身疾患に関連する紹介を受け、連携を取りながら対応している
- 3)糖尿病眼合併症については、当院患者ほか他医療機関内科患者についても糖尿病連携手帳を活用しながら連携している
糖尿病専門外来での眼合併症に関するミニ学習会を開催している
糖尿病教育入院患者の眼合併症チェックを行っている
- 4)手術は患者の希望により(安全性も含め)日帰り短期滞在入院を選択可能としている
- 5)在宅医療にも対応している(2023年度 12件)
- 6)健診での眼底カメラ判定やVDTチェック判定を行っている
- 7)関連診療所や徳島健康生協健康づくり事業部からの依頼により眼科学習会を開催(2023年度 2件)
- 8)スタッフ(非常勤看護師1名、視能訓練士2名)とともに正確な検査や安全な治療の遂行に留意して行っている

診療実績

眼科外来患者数 (2023.4-2024.3)

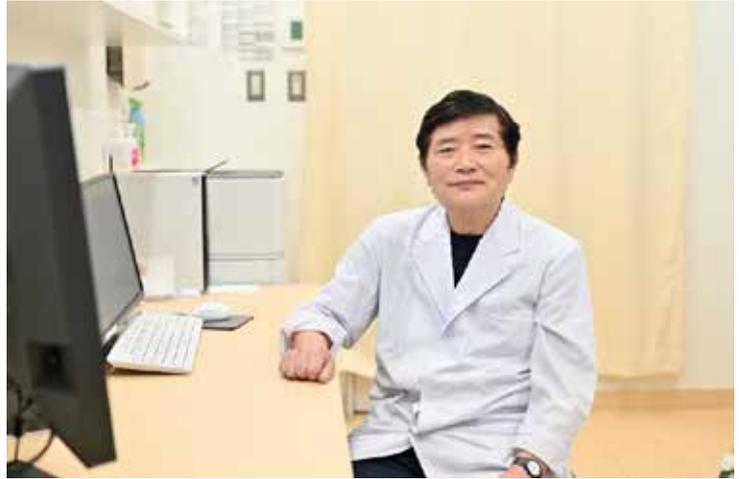


手術名	件数
水晶体再建術	59
(内訳) 日帰り	34
(内訳) 入院	25
毛様溝縫着術	0
眼瞼下垂手術	6
眼瞼内反症手術	1
眼瞼腫瘍摘出手術	0
翼状片手術	7
麦粒腫切開手術	12
涙点プラグ挿入術	2
角膜・強膜異物術	14
マイボーム腺梗塞摘出術	15
結膜結石除去術	7
網膜光凝固術	5
後発白内障切開術	12

脳神経外科

医師体制

○科長 藤本尚己



2023年度 診療概要

- 1) 外来診療の特徴として、頭痛、ふらつき、耳鳴等、気にかかる症状があれば、気軽に受診し、精密検査が受診日に受けられる
また受診し検査した結果は、当日に説明している予約、紹介状がなくても受診できる
今後、頭痛専門外来、しびれ外来、めまい外来、パーキンソン病外来を開設予定
- 2) 脳ドックは、脳ドックガイドラインに沿った検査を1日で行い、検査日に結果を説明している
- 3) 回復期リハビリテーション病棟を更に充実させる
 - (1) 片半身が不自由になった人たちにリハビリテーションを行い、日常生活が十分行えるようにする
 - (2) 脳卒中の急性期を過ぎた後のリハビリテーションが最も重要で、急性期を過ぎた患者を積極的に受け入れている
 - (3) 新病院になり回復期リハビリテーション病棟も広く、充実している
 - (4) 1～2回/週程度、医師、理学療法士、看護師、介護士、管理栄養士の合同カンファレンスを開催し患者の回復程度、今後の回復に対する目標設定を行っている

<診療体制>

外来診療 藤本医師 火・水・金 午前
徳大医師 第1・第3木 午後

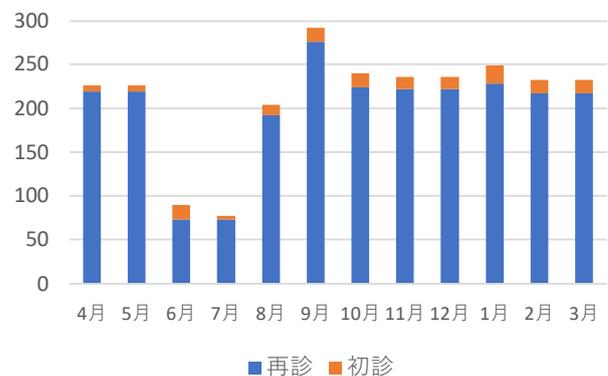
病棟リハカンファレンス：火、水曜日

リハ合同カンファレンス：適時

回復期リハビリテーション病棟運営会議：1回/月

診療実績

脳神経外科外来患者数（2023.4-2024.3）



心療内科

医師体制

○非常勤医 鳥海和広



2023年度 診療概要

1)概要

- (1)2009年から認知症等、精神疾患のある方の診療を行っている
- (2)外来および入院患者での紹介患者について診療を行っている
- (3)看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーと連携し、情報を得ながら、生活の質の向上に向けて対応している
- (4)治療困難症例については、精神科(単独科)へ紹介している
- (5)当院にかかりつけの方のみを対象としている
- (6)診療時間は火曜・木曜午前、土曜午前(主に病棟回診)である

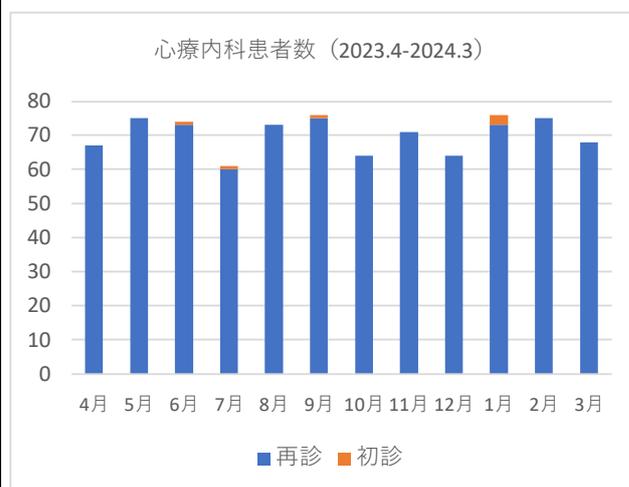
2)地域医療活動

- (1)地域での認知症学習会
- (2)精神科疾患について学習会・講演会

3)今後の課題目標

- (1)ソーシャルワーカー等、コメディカルとの連携強化
- (2)脳神経外科との連携
- (3)認知症への対応強化

診療実績



透析科

医師体制

○科長 岸田典子



2023年度 診療概要

<目標>

「笑顔で来院していただける透析室」を目指している

<概要>

- 1) 外来・入院の血液透析患者に対応
- 2) 2023年度は患者数が増加し、月水金2クールと火木土1クール、ベッド満床に近い状態であった
- 3) 介護保険要支援の患者には病院の無料送迎を利用している
- 4) 外科、整形外科、眼科、脳神経外科の併診の患者も対応。他医療機関からの紹介患者にも安全な透析治療を実施
- 5) 火曜日の午前、金曜日は透析当番として勤務

<今後の課題目標>

- 1) 学会や地方会、学習会(Web開催)に積極的に参加する

診療実績

透析室実績		件数	合計
血液透析	外来	2,293件	4,112件
	入院	836件	
OHDF	外来	983件	

外来

体制

看護師長：大野正代

主任：平尾美津代

副主任：上田美香 友兼愛子 胡桃麻紀子

職員数：40名

主な業務

問診聴取・検査説明・入院説明実施

医師の診察介助・療養指導業務

二次救急受け入れ業務・中央処置室業務・訪問診療

外来化学療法・内視鏡検査



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 患者、職員間ともに接遇の改善をしていく 訪問診療件数の維持	講師による接遇チェックを受け改善 訪問診療依頼を受けていく
	II 待ち時間の苦情が出ないような目配り、気配りをしている	カルテチェックを行い、来院時処置室案内できるように処理する
	III 中断患者のチェック	毎月システム課に中断患者一覧を検索してもらい、次回受診予定のない方に電話連絡・手紙郵送をおこなった
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I コアで話し合い、内視鏡室・眼科・放射線科の現場に入り今後の検討をしていく	2～3名固定で内視鏡室業務を習得 眼科の業務整理 現在2名で業務をおこなっている(業務引継ぎ)
	II 昨年の新入職員の外来業務一人立ち	わからないこと、確認したいことが伝えられる職場環境 次につながる指導内容 個々の業務処理能力をあげる努力を続ける
	III お互いに意見を出し合っていく	意見が出せる聞く姿勢
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている</p>	I 新加入 80名 増資件数 900件 増資額 11,000,000円	日々の声かけ 全員での取り組み
	II 依頼のある班会には業務を調整してできるだけ参加する	6月 整形外科、8月・10月 眼科で班会に参加 (3年未満の職員も同行し学んだ)
	III 組合員でない方への声かけ	ファイルの色を見て声かけする(新加入・増資)
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I 外来患者数・日当点の目標達成	診療予約のカルテチェックを行い、検査につなぐ
	II 光熱費の節約を心がける	週末使用していない診察室のプリンター電源をOFF エアコン使用時、温度設定を下げすぎない 不要な室内灯を消灯
	III 薬剤・物品が無駄とならないよう確認し実施する	2人での確認を確立 慌てない

DATA

外来全体

患者数	40,395人
新患者数	1,429人
1日平均患者数	198.7人
救急搬送件数	1,304件
訪問診療件数	226件
外来化学療法のべ件数	92件
外来手術件数	126件

内視鏡件数

	件数	総件数
胃カメラ	経口 281件	1,595件
	経鼻 1,314件	
大腸カメラ	ショート 75件	135件
	ロング 60件	
緊急内視鏡	上部 22件	40件
	下部 18件	

3 階病棟

体制

看護師長：仁木博子
主任：大谷真理子
副主任：加納亜未 天野愛美
職員数：38名

主な業務

整形外科・外科・内科の入院受け入れ
周術期患者の看護
急性期患者の療養



病院目標	部署目標	活動内容
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I 受け持ち意識を高め、患者さんの背景を知り早期から退院に向けて関わる	受け持ち患者の背景を入院時に聞けてはいるが、転棟が多く、退院にかかわれていない
	II インシデント発生率を減らす	事故の振り返りを行い、職員全体で共有できた
	III 質の向上、自ら学ぼうとする環境作り	病棟で学習会を行い、ナーシングスキルの活用も伝えた
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I 職員全員に育成面談を行う	全員に育成面談はできなかった
	II 新人・若手看護師育成を病棟全体で行う	技術の習得だけでなく、患者全体が見えるように指導した 定期的な学習会開催(年間スケジュール作成) ひよこ会議開催できた 急変時対応、挿管の介助、麻薬について、心電図についてなど学習会を行った OJTは毎月開催できた
	III 業務改善・業務の適正化(看護業務に集中できる環境作り)	外科カンファレンスはほぼ毎週開催でき、リハCCは整形外科医師を含めたカンファレンスに変更し、充実が図れた
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている	I 組織目標達成	組織委員会を中心として声かけを行った
	II できるだけ班会・組織活動に参加する	勤務表に組み込み、班会に参加できた
	III 災害マニュアル・災害対策を知り、実際の時に動ける	災害訓練・防災訓練に数名だけが参加できた
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている	I 現状を理解してもらい、職員を増やしてもらう	職員不足は続いており、他部署からの支援をもらった
	II 日当点目標：5,679点(単月平均) 1日患者数：43.5名(単月平均)	月で変更あり、目標達成できていない月もある。100件/月の入院があるため、事前に担当看護師を決めておくことでスムーズな入院対応ができた
	III 民医連・医療生協の方針を知り、署名活動に取り組む	休憩時などに署名し、ゼロをなくした

DATA

<研究・研修実績・地域への貢献>
病棟学習会
院内学習会参加
健康生活協同組合研修会参加
民医連研修会参加
オンラインでの学習会参加
班会に参加

入院件数 1,250件
日当点(平均) 5,868件
平均在院数(月平均) 12.2日
一日患者数 42.7人

<主な手術件数>

【整形外科】

骨折靱血的手術(骨接合術) 77件
人工関節手術(置換・再置換) 43件
人工骨頭置換術 34件
脊椎固定術 62件
経皮的椎体形成術(BKP) 99件

【外科】

悪性腫瘍手術(乳房) 7件
腹腔鏡下胆のう摘出手術 33件
腹腔鏡下結腸悪性手術 9件
腹腔鏡下虫垂切除術 9件
腹腔鏡下ヘルニア手術 7件
痔核手術 31件
痔瘻手術 3件
胃瘻造設術 4件

短期滞在手術件数

乳腺腫瘍摘出術 1件
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術19件

4 階病棟

体制

看護師長：元山典代

主任：平島美穂

副主任：近藤文 池北美佐子 藤澤誠司

職員数：38名

主な業務

地域包括ケア病棟

幅広い患者の受入れ、多職種協同で病院と地域を一体と考え、切れ目ない医療介護を提供している



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 個人を見る 個人を考える思いを持つ	理念・基本方針を基にどう関わるべきか再構築し風土作りを行う 面会緩和をチャンスとし、患者の生活背景を含め、より一層、本人、家族との信頼関係に努める 一緒に考える
	II 個人と向き合い、協同し問題の解決に繋げる	病棟職員、他職種一丸となり考え、何からすべきか意見を引き出し、一緒に考え実行に移す 倫理上の観点から考える
	III 職場、患者の身の回りの環境整備が行える風土作り	受け持ち看護師、病棟クラーク、介護福祉士協同で環境整備を行うよう声を掛け合う 出来た部分を褒める
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 病棟の方針をコアで分かち合い、職場会議で発信し皆のものになっている 副主任を中心にチームの想いを共有し受け持ちとして声が出せる	受け持ちの意見を引き出し、尊重し、チームで多職種で関わることで自信に繋げやりがいを持たせる
	II 接遇学習会で学んだマナーを活かし続ける 誰もが(全職種)想いや意見を出しやすい、訪問しやすい場になっている	患者、患者家族、職員問わず接遇マナー実施の声掛けを実施 受け持ち宣言 関わり宣言
	III 育成面談にて想いを知り、繋げる	育成面談を行う 勤務表に組み込む 新入職員にひよこ会議開催 法人内研修、外部研修には積極的に参加 情報収集だけでなくチューターとして発信出来るよう研修後発表の場を設け、皆のものとする
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている</p>	I 自分たちが働いている組織を理解する	組織活動、班会に参加 組合員、ボランティアと関わる 病院だけでなく法人全体として理解を深める活動の工夫をする
	II 出資金の声かけが行えている	毎月第1月曜日を出資金の声掛けディと日程を定め封筒を配布
	III 地域の拠点病院であることを認識する	対策の確認、防災訓練参加、周知
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている</p>	I 1日患者数、日当点目標達成、期限内の退院	多職種で早期から方向性の確認、退院支援を行う 期限内退院の重要性を認識 学習会
	II 超勤削減	状況把握と業務改善
	III 生協・民医連の想いや活動の周知	事例の振り返りから皆で考える 学習
上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容	I 感染、発熱患者を受け入れる病棟として全職員が対策を周知し行っている	定期的な学習会

DATA

< 研究・研修実績・地域への貢献 >

病棟学習会 院内学習会 民医連活動や研修
健康生活協同組合研修 防災訓練 緩和ケア
Web研修他 外部研修に積極的に参加

入院件数(月平均)	72件
日当点(平均)	3,531点
平均在院日数(月平均)	21.3日
一日患者数	49.3人

短期滞在手術件数	31件
水晶体再建術	24件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	98件

5 階病棟

体制

看護師長：藤井浩三

主任：大和真理

副主任：森本まゆみ 秋山陽介 後藤崇作

職員数：34名

主な業務

脊椎や大腿骨の骨折患者の受け入れ

人工関節置換後や脳血管疾患後のリハビリを受ける患者受け入れ



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 安全に入院生活が送れ、退院出来る	病棟職員、リハビリ職員と情報を共有しセンサーマットや離床センサーを適宜使用して転倒転落の予防を施した 認知症患者や高齢患者は詰め所近くの部屋に適宜移動した
	II 多職種との合同カンファレンスが定例で開催でき情報の提供・共有ができる	火曜日の整形外科ミニファレンスは主治医多忙のため、主治医単独で回診を行うことが多かった 木曜日のウォーキングカンファレンスは予定通り実施出来た 毎週火曜、水曜日の脳外科カンファレンスは実施できた
	III 収集した情報がリハビリ・看護・介護に取り入れられる	朝の業務伝達後に病棟職員内で情報の共有が出来たが、昼のカンファレンスは転棟や直接入院の対応に追われ毎回は出来なかった
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 学習会を開催し職員のスキルアップを目指す	院内学習会に代表して職員を学習会に参加したが、12月末からのコロナクラスターで病棟での学習会が開催できなかった
	II 新入職員2名が配属予定	ベテラン看護師とペアを組み夜勤業務について
	III 雰囲気の良い職場作り	下半期は退職者は出なかったが、家庭の都合で1/31で夜勤専門看護師1名の退職が決まっている
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている</p>	I 組合員新加入・増資の目標をクリアする	組織委員が各メンバーに声かけを行い、受け持ち職員が新加入・増資の声かけを行った 職員の積立て増資を勧めた
	II 毎月1回は班会や地域行動に参加する	要望があれば班会参加の予定だった
	III 社保・平和活動に参加する	社保委員担当者が声掛けを適宜行い、病棟職員に署名を依頼した
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I 職員全員が入院患者数・日当点到だわる 目標：日当点:3,450点 稼働ベッド:46床	日当点:3,416点 稼働ベッド:46床 月平均で稼働ベッドは目標クリアできたが、日当点は及ばなかった
	II 重傷者率40%以上を死守する	年間を通じ40%を切ることなく運営出来た 年間平均46%
	III 日々、病棟の状態を把握する	退院・転棟が決まればすぐに報告があり、ベッド運営をスムーズに行えた

DATA

<活動報告>

- 1) 整形外科カンファレンスを毎週、定例で開催した
- 2) 脳神経外科カンファレンスを毎週1～2回、定例で開催した
- 3) 毎日リハビリテーション科とミニカンファレンスを行い情報を共有した
- 4) リハビリテーション科と連携し、患者の現状に合ったリハビリテーションや生活動作の援助を提供できた
- 5) 新型コロナウイルス感染拡大が複数回起こったが、病棟職員の奮闘と頑張りで病棟を運営出来た
- 6) 副主任を2名体制にし、スムーズな患者情報の収集や退院調整を行うことが出来た
- 7) コア会議や職場会議を毎月開催し、共有事項の報告や伝達、病棟職員との意見交換が出来た
- 8) 新人看護師2名が配属され、プリセプターを中心に病棟職員全体で育成に努めた

	前年比	
入院件数(月平均)	71名	3
日当点(月平均)	3,416点	-55
在院日数(月平均)	56.3日	-6.6
1日患者数	46名	±0
新入院	26名	3

<リハビリテーション>

合計患者数(延べ入棟者数)	332人	FIM運動項目効率	0.8点/日(N=316)
平均在棟日数	316日	FIM認知項目利得	0.7
FIM利得	23.1(N=316)	FIM認知項目効率	0.01点/日(N=316)
FIM効率	0.8点/日(N=316)		
FIM運動項目利得	22.4(N=316)		

別館 4 階病棟

体制

看護師長：鹿島住子
主任：小谷直美
副主任：三木さやか 坂林里香
職員数：22名

主な業務

主に医療区分2・3の患者、緩和ケア対象者、院内の長期入院患者受け入れ



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 患者・家族背景を把握し、療養カンファレンスにつなげる 治療方針が明確となっている	家族の話を聞き、関係を深める 療養カンファレンスができいない担当医には、来棟時に方針の確認をする
	II 安全に入院生活が送れる	転倒予防、大きな事故を防ぐため、認知症・せん妄患者の行動・状態をスタッフ全員が把握し対策がとれる
	III 患者の身の回りの整理整頓	受け持ちを中心にベッド周囲の整理整頓を行う
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I プリセプターを中心に、スタッフ全員で新人教育に取り組む	新人職員の面談を毎月行い到達度を確認し、スタッフ全員で共有する。新人職員の育成を通して、スタッフ全員が成長できる
	II 職員のスキルアップをはかる	接遇改善に努め継続していく ナーシングスキルを活用し、学習の習慣をつける 病棟内で必要な学習は、すぐに計画し実行する
	III 育成面談に取り組む	年度内早期に面談を行い、意見交換し病棟内で役割を持って活動できるようにする
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている</p>	I 班会・地域活動に参加する	できるだけ参加できるようにする 新入職員から参加し、班会・生協活動の理解につなげる
	II 新加入・増資をすすめる	組織担当者を中心に、病棟スタッフ全員で声かけを行う
	III 災害マニュアルの周知、防災訓練に参加する	防災訓練に参加し、スタッフが災害マニュアルを理解する
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I 1日患者数・医療区分80%以上の目標をクリアしながら、他病棟・他院の転棟転院を受け入れる	病院全体・病棟の患者数・医療区分を見ながら退院調整を行う
	II 消耗品費・水道光熱費の削減	こまめな節電・節水を行う
	III 社保・平和活動へ参加する	学習会・行動への参加を行う 積極的に署名に取り組む

DATA

- | | | |
|---|---|---|
| 1)療養病棟3年目の年であった
医療区分2・3の療養対象となる患者確保が大変であったが、1日患者数が27.2人(定数28床)で終えることができた | <研究・研修実績・地域への貢献>
中四地協看護介護症例検討会
全日本民医連第16回学術運動交流集会 | 入院件数(月平均) 7件
日当点(平均) 2,039点
平均在院日数(月平均) 104.2日
一日患者数 27.3人 |
| 2)医療区分2・3の患者以外に、院内の長期入院患者、院内外の緩和ケア対象患者を積極的に受け入れた | | |
| 3)毎週定例で多職種参加の療養カンファレンス、緩和カンファレンスを行った | | |
| 4)病院全体でリリース体制の構築が進められ、他部署への支援を積極的に行った | | |
| 5)研修医を交えて、DNARについて倫理カンファレンスを行った | | |

中材・OP室

体制

看護師長：本浄直美

職員数：8名

主な業務

外科、整形外科、眼科の手術
 周術期看護として術前、術後訪問
 各部門で使用する医療器具の洗浄、滅菌、払い出し
 医療器具全般の物品管理



病院目標	部署目標	活動内容
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I 患者・患者家族の思い・人権を大切に、安心・安全・安楽に手術が受けられるよう支援する	関連部署との連携を強化し、患者の情報共有を行う 術前・術後訪問から患者の思いをくみ取る
	II 学び・気づきを大切に、自身の力量アップさせ、安全な手術を提供する	医療事故トラブル報告書・あっとはつとを活用し、安全に手術が提供できるようにレベルアップする スタッフ間で患者の情報共有を行う
	III SSI対策の維持 SSI目標・外科(C/CC)5%以下・整形2%以下	SSI対策維持・サーベイランスの持続 SSI会議の開催(5月)
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I 必要時に職場会議を開催 コア会議を開催(1回/月)	必要時に職場会議を開催し、スタッフの意見を聞く コア会議の定例化
	II 育成面談100%を目指す	面談に取り組み、個人個人の思いや考えを引き出し、互いに育ち合う職場づくりを行う
	III 働きやすい職場づくり	後継者育成・人材確保を行う 誰もが同じ動きができ、安心して働ける環境づくりをする 担当者を中心にホームページなど広報宣伝活動に取り組み、自部署を知って貰う
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている	I 職員と組合員が共に活動する場を増やす	病院・診療所のイベント、集会に参加する
	II 組織活動(班会・支部との関わり)を行う	要請のあった班会や支部運営会議に参加する
	III 防災訓練に参加する 災害マニュアルの周知	防災訓練に参加し、スタッフが災害マニュアルを理解する
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている	I 点数漏れを防ぐ 数字にこだわる	レセプトチェックを継続し、スタッフ・医事課と情報共有する
	II 材料費の削減につなげる	スタッフ・医師と相談し、医材費の削減につなげる
	III ゼロ署名をなくす	担当者を中心に署名活動を行う

DATA

	全身麻酔	腰麻	局所麻酔	合計
外科	111件	41件	54件	206件
(緊急)	25件	2件	3件	30件
整形	281件	56件	38件	375件
(緊急)	23件	17件	1件	41件
眼科	-	-	102件	102件
(緊急)	-	-	1件	1件
合計	392件	97件	194件	683件
(緊急)	48件	19件	5件	72件

腹腔鏡手術：88件

脊椎手術：188件

うち経皮的椎体形成術 93件

BKP(Ballon Kyphoplasty) 46件

VBS(Vertebral Body Stenting) 39件

透析室

体制

主任：村上正二郎

職員数：7名

主な業務

血液透析 (HD、OHDF)

フットケア

医療機器管理



病院目標	部署目標	活動内容
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I 血液検査、レントゲン検査から透析データを分析し治療へと繋げる	検査データから透析治療、使用薬剤等を考慮し身体の状態悪化を防ぐ
	II オンラインHDFを継続実施	オンラインHDFで使用できる適正な透析液を作成する オンラインHDF治療が必要な患者に実施していく
	III フットケアを継続	フットケアを継続して下肢病変悪化を防ぐ
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I 職場で意見を出し合い業務改善を行う	業務での問題を話し合いながら安全に仕事出来るように業務改善を行う
	II 院内の学習会、院外の学習会、学会、セミナーに参加する	各職員が学びたい分野の学習会、学会、セミナーに参加する
	III 若手職員を育成する	部署全体で若手職員教育に係わる 話しやすく聞きやすい職場作り
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている	I 組織活動で新規加入、出資件数を増やす	組織活動を行い、新規加入、出資件数、出資金の増額に繋げる
	II ボランティア活動に参加する	院内のボランティア活動に参加する
	III 防災対策、災害対策、災害訓練を行う	防災対策、防災訓練を行う 災害対策として災害マニュアル整備、災害訓練を行う
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている	I 新規透析導入患者 4 名、転入患者受け入れ12名 新規透析患者を導入し当院で維持透析を行う	透析患者を新規導入して当院で維持透析を行う 他病院からの転入患者を受け入れる
	II 透析回数330回/月(外来280回/月、入院50回/月) 目標日当点2850点	外来透析患者数を確保して診療報酬を増やす
	III 署名活動を行う	各署名を集め提出する
上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容	I 医療機器学習会を開催する	医療機器学習会を数回開催する
	II 医療機器保守管理マニュアルを作成する	医療機器保守管理マニュアルを作成、改訂を行う
	III 医療機器の更新	古い医療機器を新しくする

DATA

透析室実績		件数	合計
血液透析	外来	2,293件	4,112件
	入院	836件	
OHDF	外来	983件	

看護部

体制

看護部長：野上由起子 (Q1室室長兼任)
副看護部長：木下敬子 内藤江美

職員数：5名

主な業務

管理者の一員として病院運営に参加し、医療生協・病院の方針に基づき看護部門を管理・統括し、看護業務の完遂を図る
看護職員に対する人事・教育・労務管理及び提供されるサービスを統括し責任を負う



病院目標	部署目標	活動内容	
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっていく</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I	<p>※受持ち看護師・介護士意識（責任感）の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者・家族の思いに寄り添う ・ケアマネ・MSWと連携し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスの充実 ・「患者を知る」「興味を持つ」の視点を養う ・ケアの倫理について学び実践する
	II	<p>※看護・介護の質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員がナースングスキルを活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場学習会に積極的に活用する ・定期的に利用状況の確認とフィードバック
	III	<p>※全部署から訓練に参加</p> <p>※BCPを完成させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対策本部の役割や初動対応を訓練で学ぶ ・管理部内でBCPの進捗を共有し完成に繋げる
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I	<p>※退職希望者を早期把握し、退職前補充を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介業者、ハローワークと連携強化 ・職場内コミュニケーションを深め、情報を得る
	II	<p>※夜勤可能な人員確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低4名 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介業者、ハローワークと連携強化 ・育休明け職員へできる範囲での協力要請
	III	<p>※研修内容の充実をはかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月新人研修+定期的な研修の追加(7項目) 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部門以外の部門に協力の依頼をする ・職場全員で育てることを目標にする
	IV	<p>※子育て世代が働き続ける事ができる体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児保育場所の検討 ・遅刻の保証(書類提出、回数制限付) <p>※魅力ある職場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的安全性(ハラスメント、人間関係) ・育休職員がスムーズに職場復帰ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の増加に伴い、突然の欠勤による業務負担の軽減や安心して働くことができる環境作りのため病児保育場所の確保、遅刻保証の検討を勧める ・育成面談の実施100% ・自部署の存在意義を認識し意見を出しあえる職場会議の開催
	V	<p>※業務内容に見合った手当での見直し ・役職手当UP</p> <p>※認定看護師の後継者育成 ・教育課程進学への支援</p> <p>※看護管理者の後継者育成 ・各種研修への参加</p> <p>※働き方改革 ・超勤削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設の役職手当の情報収集を行なう ・子育て世代でも役職を担ってもらえるような特別手当の検討 ・希望者を募り支援体制を強化する ・積極的に研修に参加し経験値を上げる ・就業時間内で業務が終了できるように業務改善を行う
	VI	<p>※接遇セミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応対を学びを活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に研修計画を立て参加を促進する
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている</p>	I	<p>※各種署名、宣伝活動への参加、学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・署名内容を理解し活動できる ・全員が評議員会方針学習を終了する 	<ul style="list-style-type: none"> ・署名(運動)について動機づけを行ないゼロ署名をなくす ・民医連新聞に目を通し情勢に興味を少しでも持ってもらう ・勤務調整、声かけにて方針学習を行っていく
	II	<p>※組織活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班会へ参加し健康維持、病気予防に努める ・健康と生活を守る ・新加入件数2件、増資件数70件、増資金額 900,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・要請のある班会には断らず参加する ・組合員さんの健康と生活を守る視点を育てる ・新加入、増資件数、金額達成のためコツコツ頑張る
	III	<p>※事業所利用委員会活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合員さんの意見を聞き改善点を拾い出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の定例化と意見交換を行い地域との繋がりを強める ・組合員さんの声を現場へフィードバックし改善・向上に繋げる
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I	<p>※各部門の目標に対する損益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務部門と協力し損益の分析と改善 ・ベッドを埋める 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、予算目標の数字を確認し乖離させない意識を持つ ・ベット調整会議にてベットを埋めることにこだわる
	II	<p>※他部門と連携し医療提供の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心した療養環境の提供 ・業務負担の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種との信頼関係を深めながら連携を強める ・看護補助者の補充

<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	<p>III</p>	<p>※「民医連、医福連の介護・福祉の理念」学習</p> <p>・積極的に研修に参加</p>	<p>・法人内、外の研修に参加を促す</p> <p>・事例を通して理念の中身を深める</p> <p>今年度の看介活研は全部署事例発表</p>
<p>上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容</p>	<p>I</p>	<p>※リリーフ体制を構築し職場間の垣根を越えた働きやすい職場づくりを行なう</p>	

DATE

<活動報告>

院内研修会参加

感染対策 2回

医療安全 2回

接遇 1回

セキュリティー 1回

防災 2回

院外研修会参加

県看護協会 看護職連携推進会議 2回

<新人教育>

副看護部長が中心となり、毎月1回新人教育を実施

5月 術後患者のトランス方法やコツや注意事項

6月 インスリンの種類と注意事項

7月 心電図モニターの見方・心電図モニター装着の仕方

8月 訪問看護師に同席し訪問看護の仕事や患者の自宅での生活を知る

9月 麻薬の種類と取り扱いについて

10月 救急カートの薬品について

11月 挿管介助（BLS/ACLS）

12月 新型コロナウイルス感染症拡大で中止

1月 OP室での看護清潔不潔の重要性を学ぶ

2月 褥創予防対策・褥創処置

医療安全管理室

体制

医療安全管理者：勝野涼子

主な業務

インシデント・アクシデントレポートの集約
再発防止策の検討及び推進、安全に関する職員教育

病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 事故事例検討がおこなわれ再発防止に努めている (各委員会の定例開催)	医療安全管理対策委員会、推進担当者会議、注射内服小委員会の定期的な開催 1回/週(医療安全カンファレンス)
	II 事故発生後、再発防止策を検討・共有・検証できている	専門職による委員会・研修会の実施、ラウンドの実施 (5S、転倒、安全など)
	III インシデント・アクシデント報告を速やかに提出できている(レベル0:300件/年 全報告件数:960件/年)	報告書を集約することで事故の傾向や対策を把握し、職員と共有することで再発防止に繋げる サンキュー・グッジョブ報告の共有
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 継続した研修会の実施 ノンテクニカルスキルに着目した研修の実施	参加しやすい学習会を企画する(短時間にする・職場単位でおこなう) 全体学習会2回/年、BLS訓練2回/年
	II 定期的な推進担当者会議の開催(少なくとも年6回)	担当者と共に学習会を企画・運営する 担当者の意識改革ができるような援助と会議運営を実施する
	III 医療に関わる知識や技術の向上に努める	外部研修に参加し、情報収集することで管理者としてのレベルUPを図る
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている</p>	I 正しい患者確認のため「名のっていただく」	自部署のルールを正確に実践してもらい、患者自身も参加した安全活動をおこなう
	II 組合員や住民の方の声を聞くため地域訪問に参加できる	地域訪問等に参加し、健生病院の良さを知ってもらう
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I 医療訴訟を起こさせないための組織的な体制の整備	患者サポート会議等に参加し、気になる患者や患者からの要望などの情報を多職種で共有する
	II 民医連、生協活動への参加	情勢学習会への参加
<p>上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容</p>	I 第三者目線で健生病院の医療安全を評価してもらう(1回/年)	他医療機関との連携を図る
	II 民医連の中での連携	中四地協医療安全委員会へ参加し、自院の医療安全活動に活かす

DATA

- ・インシデント 889件、アクシデント 22件
- ・6月医療事故防止月間
テーマ「心理的安全性」 スローガン「安心して言える 聞いてもらえる 風通しのよい職場」
- ・医療安全地域連携相互診断：2/29 ・中四国地協医療安全相互診断：3/22
- ・学習会等：MRI学習会、心理的安全性について、BLS訓練、ACLS訓練、心電図について、診療放射線の安全利用について他

看護QI室

体制

室長：野上由起子（看護部長兼任）

看護師長：川上あき子

職員数：2名

主な業務

感染管理

糖尿病看護

病院目標	部署目標	活動内容	
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっていく</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I	<p>※糖尿病教育入院（バス）</p> <p>※4月より糖尿病専門外来開設、糖尿病教室見直し</p> <p>※初動体制の強化</p>	<p>最新の動向を把握しバス内容に反映させる</p> <p>専門性を活かした教育・指導を継続する</p>
	II	※マニュアル整備	<p>研修会、学会等参加により知識の向上と共にマニュアルに反映させる</p>
	III	<p>※学会、研修会等への参加</p> <p>・得た知識、技術のフィードバック</p>	<p>現地参加（WEB含む）のより質疑応答を積極的に行い自己研鑽に努め病院全体の質向上に努める</p>
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I	<p>※認定看護師教育課程へ進学希望者の支援</p> <p>・糖尿病看護認定看護師</p> <p>・感染管理認定看護師</p> <p>※糖尿病療養指導士の育成</p>	<p>進学希望者を募り、学習支援や相談者となる</p> <p>チーム会を中心に声かけを行う</p>
	II	<p>※些細なことでも報告・連絡・相談し合える</p> <p>・相談件数DM15件/月、感染約30件/月</p>	<p>各委員会の中で問題点の抽出や些細な疑問を話し合い、情報共有を深める</p> <p>相談しやすいように普段からコミュニケーションを密にする</p>
	III	<p>※学習会の依頼を断らない</p> <p>・資料の充実</p>	<p>院内・院外の依頼は真摯に対応する</p>
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている</p>	I	<p>※班会、地域訪問へ参加</p> <p>・依頼を断らない</p> <p>※糖尿病患者会活動の再開</p>	<p>3年ぶりに活動が再開方向、健康生協の役割を見つめ直す</p> <p>6月より糖尿病患者会活動再開（毎月1回）</p>
	II	<p>※継続可能な増資</p> <p>・積み立て増資、夏期・冬期一時金UP検討</p> <p>※フットケア時に新規加入、増資の声かけ</p>	<p>継続的に取り組んでいる</p>
	III	※近隣地域、県内も含め資格の有効活用ができる	<p>感染：認定看護師教育課程の講師として資格活用</p> <p>その他、学習会の依頼を積極的に受ける</p>
<p>◆必要利益に基づき経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I	<p>※合併症予防管理料月60件/教育入院バス24件</p> <p>※感染対策連携CC</p> <p>・CCに4回以上参加</p>	<p>透析予防管理料算定に取り組む</p> <p>必要回数カンファレンスの参加及び依頼のあるデータの提出</p>
	II	※衛生材料、个人防护具等最低限のコストでの対策の継続ができる	<p>備蓄数の確認を行う</p>
	III	※患者の人権を保護し慎重に関わり個別の看護・サービスの提供	<p>ケアの倫理について学習を進める</p> <p>署名活動を行った</p>

DATA

< 感染管理 >

感染対策加算カンファレンス

連携先	開催日
東徳島医療センター	6月26日 10月2日
	12月4日 2月5日

< 糖尿病看護 >

外来フットケア	400件
透析室フットケア	299名
教育入院	29件
内クリニカルバス適用	9件

検査科

体制

技師長：吉野貴子
主任：小川由紀子
副主任：澤崎由季
職員数：10名

主な業務

生化学・免疫検査、血液検査、輸血検査、一般検査
細菌検査、生理検査、病理検査



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 至急や即日検査に対応できる体制 一般診療や健診での待ち時間短縮	<p>新入職員の研修を仕上げ各部門へ配置し正常検査体制を復活する</p> <p>健診繁忙期心電図2台体制</p> <p>1階検査室で業務の調整する人員の配置</p> <p>2階エコー室で至急対応や調整する人員の配置</p>
	II 検体・生理とも院内(検査科内)の基準に基づいた結果返しと異常値報告の実施	<p>報告の遅れやもれをなくす</p> <p>報告間違いは全体で共有し改善する</p> <p>生理検査の緊急報告の判断ができるように学習を進める</p>
	III 間違いのない丁寧な報告書の作成	<p>当日ダブルチェック体制</p> <p>エコー所見文章や記号などを統一</p>
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 火曜金曜の体表エコー枠を増やす レディース健診の乳エコーの枠を増やす 心臓エコー研修を継続する 部門毎の育成計画を設定する	<p>体表エコー研修を年度内で完了させる</p> <p>阿南診療所エコー担当を追加する</p> <p>技師研修プログラムの見直し</p> <p>検討項目として血管エコー、術中モニタ担当、振動病関係担当、血液部門担当の追加、細菌部門担当の追加</p>
	II 院外学習会への参加し情報を共有する 部会学習会の開催継続する(年間12回)	<p>院外学習会へ積極的に参加し情報を共有できる場をつくる</p> <p>月1回部会内での学習を継続する</p>
	III 定期的な症例小報告会の開催と継続	<p>生理検査小報告会を週1回を目標に定期開催する</p> <p>検体部門も含めた全体でできる会の開催を考える</p>
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている</p>	I 班会活動への参加 支部会議への参加	<p>新入職員が一人で班会参加できるようになる(コロナ期間中一人で班会に参加できていない職員4名)</p> <p>担当月の支部会議へ参加できるよう調整する</p>
	II 新たな班会メニューの作成 既存の班会メニューの内容更新	<p>今までの班会メニューを整理する</p> <p>健診へつながるような新たな班会メニューを考える</p>
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている</p>	I 機器購入予定表を作成し計画的な機器購入を行う	<p>導入から更新までを約10年として予定表を作成する</p> <p>今年度の機器購入予定表</p> <p>来年度の機器購入予定表</p>
	II 頸動脈エコーとABIの件数を増やす 総エコー件数を増やす(過去5年間平均を目標)	<p>頸動脈エコーとABIの洗出を継続する</p> <p>動脈硬化健診や脳ドックでのエコーを柔軟に受け入れる</p> <p>至急や即日対応ができる受入体制を整える</p>
	III 時間外労働の削減	<p>残業担当者に時差出勤をとり入れる</p> <p>時間外へ仕事が持越されないように日勤業務の調整をする</p>
<p>上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容</p>	I 内部精度管理の保障	日臨技品質保証の取得をめざす
	II 外部精度管理へ参加	日臨技、徳臨技、超検学、サーベイ 目標A・B評価100%
	I 認定技師の取得	目標の一つとして認定技師取得を応援

DATA

総検査件数	457,275 件	検体検査件数	390,902 件
外来	287,418 件	生理検査件数	16,927 件
入院	84,546 件	細菌検査件数	7,345 件
健診	85,308 件	病理検査件数	410 件

放射線科

体制

技師長：江川英志

職員数：7名

主な業務

一般撮影、MRI撮影、CT撮影、マンモグラフィ撮影

T Vレントゲン撮影、大腸CT撮影

骨密度撮影、術中イメージ、遠隔造影送受信



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっていく</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 新しい検査方法の学習と実践	研究会での学習したことの実践(4月から59件の実施)
	II 放射線のホームページを載せてもらう	新しい項目の追加により充実したものができた
	III MRIの安全運用	MRI用の車椅子2台の活用 順路案内表印刷時、MRI問診が別紙、印刷されるようになったMRIの安全学習会の実施
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 若手職員の研究発表支援を行う	学会での研究発表を手伝う
	II 笑顔で仕事ができる環境作り	患者笑顔がでるように
	III 接遇の取り組みを強化	接遇学習会で学んだことの実施
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている</p>	I 班会を再開して検査の充実	班会参加が初めての若手職員に中堅職員がサポートし2名で参加できた
	I CT検査の目標を440件にアップ	飛び入りの検査を断らない 大腸CT検査施行技師の育成
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	II MRIの目標を240件にアップ	飛び入りの検査を断らない DWIBS検診の広報活動
	I 全国各地で認知されてきた「徳島健生方式」を講演して普及、精度アップに貢献	依頼があれば断らない 新しい大腸CT研究会の立ち上げで世話人に選出された
<p>上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容</p>	II 胸部写真からの骨密度測定の検査開始	検診からの運用開始

DATA

< 研究・研修実績・地域への貢献 >

学会研究会発表 4件

学術講演 2件

検査名	件数
CT	4,934
大腸CT	196
MRI	2,747
一般撮影	13,870
骨密度	2,982
マンモグラフィ	614
胃透視	200

リハビリテーション科

体制

科長：勝野涼子（医療安全管理者兼任）
主任：鎌田大志 松本由紀子 島田美知恵 山下愛実

職員数：41名

主な業務

理学療法：入院・外来
作業療法：入院・外来
言語聴覚療法：入院



病院目標	部署目標	活動内容
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I 術後早期から介入し、POSが連携してクリティカルパスに沿った対応を行い、最大限の効果を得る	術後から必要単位数介入できるよう、人員体制を考慮する POSでコミュニケーションをしっかりと取る
	II 症例検討会、学習会を定期的実施する →症例検討会 月8回、学習会 月3回	セラピストの知識及び技能向上が図れるよう、計画立てて症例検討会、学習会を実施する
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I 入職4年目以降の教育指針を整える	入職4年目以降の人材育成プランを明確にし、具体的な教育プログラムが作成できるよう準備をすすめる
	II 育成面談を必ず行う →年2回	全職員の意思統一が図れるよう、想いをくみ取る場を作る
	III 接遇改善に取り組む	接遇マナー学習会が開催されれば、全職員が必ず参加する学習会での学びが継続して取り組めるよう、職員同士意識し声かけを行う
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている	I 依頼があった班会、地域訪問に可能な限り参加する	多くの職員が参加出来るよう、計画を立てて実行する 班会メニューの見直しを行う
	II 出資金・新加入への取り組みを行い、部署内の進捗状況を全職員が意識する	職場会議や組織委員会等で情報を共有し、目標達成を意識する
	III 職員1人1人がルールを守り責任のある行動をとる	対応指針等、職場内での情報共有に努める
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている	I 経営剰余の確保 →1日平均稼働率 PO17単位、ST15+2単位	患者別取得単位数を把握し、減点対策も考えながら、効率良く単位数取得を行う
	II 有限あるセラピスト数を、方針に沿って配置する	管理部、医師等に相談し、リハ必要性判断を行っていく
	III 生協活動や民医連の学習会などに参加し、理解を深める	取り組みの重要性を再認識し、ゼロ署名をなくす 多くの職員が学習会に参加出来るよう、業務の配慮を行う
上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容	I リハビリテーションを提供するために必要な書類を作成し、正確な登録に努める	リハビリテーション料が減算されないよう、POSが協力しあい、算定期限を厳守する 状況に応じた書類が作成でき、必要な情報を提供する ダブルチェックを意識的に実施する
	II 人員確保に取り組む	病院見学会を開催する

DATA

< 処方件数 >

整形外科	件数
上下肢骨折(OP・保存含む)	144
人工関節置換術後	37
脊椎圧迫骨折(BKP・保存含む)	119
骨盤骨折	20
下肢切断	4
肩腱板断裂	2
頸部疾患(CSM、OPLL他)	26
腰部脊柱管狭窄症(OP・保存含む)	69
レスパイト	1
その他運動器疾患(OA・蜂窩織炎等)	93

脳神経外科

脳血管疾患	118
レスパイト	5

内科・総合診療科

肺炎	62
その他呼吸器疾患(COPD・肺気腫等)	40
DM教育入院	26
心不全	26
レスパイト	1
その他内科疾患	90
COVID-19	25

外科

外科OP後(開腹・開胸術後等)	29
緩和ケア	3
その他外科疾患(熱傷等)	18

食養科

体制

科長：舟本優子

職員数：3名

主な業務

入院患者の栄養管理

外来・入院患者への栄養相談業務



病院目標	部署目標	活動内容
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I 食事満足度の向上(前年度以上)	食事摂取状況の確認を行い適切なタイミングで介入する
	II 誤配膳件数20件以下/年	情報共有の徹底、食札表記の工夫・統一を行う
	III アンケート実施(1回以上/年)	患者さんの声を反映した献立内容の見直し
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I スキルアップの学習に取り組む	各種学習会への参加
	I 新加入・増資目標の達成(8件、129万円)	到達状況を定期的に確認しながら組織活動に取り組む
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている	II 機関紙・HPなどへの掲載	計画的な原稿作成
	I 栄養相談件数 500件/年(40件以上/月)	実施状況、対象者の確認を定期的に行う
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている	II 節水・節電	意識向上のための表示や、継続した声かけ
	III 各種署名の提出(ゼロをなくす)	「署名用紙がきたらすぐに提出」を継続

DATA

外来栄養相談件数	147件
入院栄養相談件数	612件
糖尿病教育入院栄養相談件数	13件
化学療法栄養相談	61件

入院患者食数	160,948食
特別食加算割合	29.2%

嚥下造影検査	28件
栄養管理情報提供書	62件

2023年度医療評価調査 4.2点/10点
(前年7.0点)

薬剤科

体制

科長：生田佳津
主任：大谷知子

職員数：9名

主な業務

医薬品管理業務
調剤業務、DI業務
服薬指導業務、病棟薬剤業務



病院目標	部署目標	活動内容
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I 院内フォーミュラーの作成	フォーミュラーの作成に取り組み、採用薬の整理につなげる
	II 骨粗鬆症治療の中で薬剤師の役割を發揮する	骨粗鬆症治療に積極的に関わり、入院から外来への流れも含め薬剤師の役割を検討していく
	III 調剤業務、病棟業務のそれぞれの役割を確認し業務整理する	業務整理を行い、全体で協力して業務分担できる体制を整える
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I 職場会議を月1回行う	職場会議を定例化させる 効率的に会議運営を行う
	II 定期的に学習会を行う	月2回程度の雑誌学習会 それぞれの自己目標達成のための学習の機会とする 新型コロナ感染状況をみながらメーカー学習会を再開
	III 職員育成	育成面談をおこない、それぞれの目標を具体的にする
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている	I 学習会に参加	全員が学習会に参加する 学習会の内容を全体で共有する
	I 薬剤管理指導料算定件数 月180件	病棟業務に関わる時間を確保する
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている	II 薬剤総合評価調整加算の算定	ポリファーマシーの視点をもって処方提案をしていく
	III 在庫管理を意識する	薬の動きを全体で共有し、不動態在庫をかかえないようにする

DATA

【各種算定件数】	件数
薬剤管理指導料1	1,089
薬剤管理指導料2	962
退院時薬剤情報管理指導	300
麻薬管理指導加算	79
無菌製剤処理科1	147
無菌製剤処理科2	1,959
病棟薬剤業務実施加算	5,001
薬剤総合評価調整加算	17
薬剤調整加算	15

院内フォーミュラー作成
 ・経口PPI
 ・高カリウム血症治療薬
 ・アンジオテンシン変換酵素阻害薬
 ・アンジオテンシンII受容体拮抗薬
 ・Ca拮抗薬

デイケア室

体制

主任：山下愛実（リハビリテーション科主任兼任）

副主任：森優子

職員数：14名

主な業務

リハビリテーション

送迎

健康チェック



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 住環境や生活背景も考えながら生活動作や歩行が安定して行えるようリハビリ評価し実施している	契約時や必要時に家屋調査を実施し福祉用具の提案や動作練習を実施する
	II 退院後、早期にサービス利用につながるよう病棟や事業所との連携を強化する	①地域連携室、病棟との連携 ②居宅支援事業所との連携 院内からの紹介は積極的に受け入れる
	III 普段から全員が意識して感染対策をしっかり行っている	状況に合わせた感染対策を実施し、感染症発生時にはBCPを発動し初動対応がスムーズに行える
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 日々の業務で得た情報共有や疑問・改善点等が積極的に意見交換でき、以降の業務に活かすことができる	①毎日の朝礼・終礼・業務日誌を活用しての情報共有 ②定期的な職員との対話 ③職場会議 1回以上/月 ④全職員育成面談 1回以上/年
	II ①自部署で学習会を実施し全体のスキルアップができています ②介護に関わる全ての職員の実務経験に応じた研修を受講し知識及び技術を習得する	①自部署で学習会実施 ②勉強会や研修会に参加する
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている</p>	I 新加入 新規利用者全員 増資件数 30件 出資金額 700千円	強化月間の設定、取り組み
	II 利用時に災害が発生した場合の対策ができている	年2回災害の学習会や災害訓練を実施する BCPを運用し適宜見直し改善していく
	III 班会、地域活動への参加・協力をする	情勢を確認した上で、積極的に参加する
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I 1日平均利用者数30~32人を達成できている	1日利用者数を全面にした目標とする 利用者確保のため、要支援者も積極的に受けていく また、利用受入体制も今までのやり方だけでなく柔軟に対応を協議、検討をしながら利用者確保を進めていく
	II 職員全員が現状の把握と目標達成に向けて関わっている	職場会議を活用し現状の到達、改善項目等の意思統一を図る
	III 署名活動を継続的に行い、利用者・家族にも内容の重要性・必要性を理解してもらえる	署名担当を設置しゼロをなくす
<p>上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容</p>	I デイケアを運営していくために必要な書類を作成し、提出する	状況に応じた書類が作成でき、必要な情報を提供する ダブルチェックを意識的に実施する
	II 訪問リハビリ件数の目標を平日稼働日数×3件とする。	目標を下回らないように祝日の振替利用を提案する

DATA

＜デイケア＞	稼働日数	257日	延べ利用者数	要介護	6,085名	＜訪問リハビリ＞	延べ件数	106件	
	(内訳)			要支援	1,449名		延べ回数	678回	
	平日	243日			7,534名		延べ単位数	1,356単位	
	祝祭日	14日							
			一日平均利用者数		29.3名			新規利用者数	4名
延べ件数	要介護	933件	新規利用者数	要介護	27名				
	要支援	270件		要支援	10名				
	計	1,203件		計	37名				

健診センター

体制

センター長：増田容子

職員数：6名

主な業務

各種健康診査

予防接種（15歳以上）

特定保健指導



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 結果返し → 2週間以内	読影体制を検討する 読影の声かけを行う
	II ネット予約 → 上半期までに方法を検討	タブレット端末の購入を検討する メールでの予約ができないか試してみる LINEでの予約ができないか試してみる
	III 精査の業務 → 上半期までに改善方法を検討	6月中に2022年度の取り組みまとめを行う システム課に相談し、電子カルテを上手に活用できないか検討する 精査が必要な方が受診してくれるように、健診結果を送付する際に分かりやすい案内をつける 外来に取り組みの協力をお願いする 問診票のレイアウトや入力画面の変更
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 研修会 → 年1回参加	研修会・学習会へ積極的に参加する
	II 育成面談 → 年1回実施	育成面談を実施
	III 超過勤務 → 前年の10%削減	各個人が抱えている業務の共有を行い、業務分担する 請求業務など、複数で関わるようにする
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている</p>	I 班会や地域訪問 → 年1回	繁忙期以外の班会要請を断らない、地域訪問に参加する
	II 新加入・増資件数・増資金額 → 1項目達成	健診案内送付時に加入の案内や増資のお願いを同封する 健診受診時、未加入者へ加入の呼びかけを行う 毎月、到達状況を確認、共有する
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I 特定健診・事業所健診 → 前年受診者の80%が受診	前年受診者へ案内を送付する(6月頃) 前年受診者で未受診者へ再度受診案内を行う(10月頃) 決まってきた事業所や毎年ドックを受けてくれている組合員へ早めに予約確認を行う 外来や医事課に協力してもらい、特定健診の案内を行う 職員家族の方へ特定健診の案内を行う
	II 協会けんぽ新規利用者 → 25件	協会けんぽ受診勧奨名簿をみて健診案内を送付する ホームページの内容を充実させる 写真の差し替え、内容変更等
	III 民医連関係の学習など提起されたら行う	提起された学習を昼礼時などに行う 提起された行動に参加する
<p>上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容</p>	I 人間ドックの実施方法の検討を今年度中に行う	健診当日に血液検査など診察で結果説明できないか健診プロジェクト委員会で検討
	II 人間ドックの受診者へのプレゼント企画を不定期に行う	人間ドック受診者にエコバックを配布 試供品などを健診受診者へ配布
	I 協会けんぽとの特定保健指導の個別契約を上半期までに検討	協会けんぽから特定保健指導についての説明を受ける 特定保健指導の実施について(体制・実施時期など)検討

DATA

利用延べ件数 12,440件

主な内訳

徳島健康生協組合員健診	1,281件	自治体健診	1,346件
特定健診	1,123件	予防接種	2,246件
事業所健診	5,184件	特定保健指導	18件

地域連携相談室

体制

室長：佐々木清美
主任：長田聖

職員数：8名

主な業務

病診連携業務、訪問活動、入院患者の退院調整
退院後の生活・医療費・生活費・公的制度などに関する相談援助



達成イメージ	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 他院からの紹介入院が月平均で前年を越えている (2022年月平均32件)	病院・施設・居宅事業所などへの訪問活動が6件/月以上できるように2回/月勤務表に予定を組み込む 訪問先を決める(紹介元には必ず訪問) パンフレットの作成
	II お断り・キャンセル数が相談件数の15%未満に	1人の医師からの返事だけで断らない お断りの場合は院長・副院長に確認する
	III 前方支援・後方支援とも迅速な対応ができています	紹介元には2～3日以内に受け入れ可否の返事をする 1週間以内に受け入れができるようベッド調整に積極的に参加
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 全員が1年に1回は職種に関する教育を受けることができています。症例検討ができています	研修会の案内が届いたら、勤務表に組み込む
	II 準備を進め、時期をみて社会福祉士養成校へ訪問し、来年度、新卒の社会福祉士の確保ができています	社会福祉士養成校訪問のための資料を5月中に作成する
	III 担当制ではあるが、それぞれの業務に関して、複数で関わることができています	経営を考慮し、算定できる加算はとっているように、人員配置・担当病棟などを決める 今後定期的にローテーションし、力量UPしていく。できるだけ複数で関わられるように 予約業務は全員ができるように、マニュアルの整備をし、事務担当者から教えてもらう
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている</p>	I 新加入10件、増資件数100件達成、職場会議で達成状況を毎月報告できている	病院組織委員会に参加し、他部署の取り組みを参考に、自部署での取り組みを具体化させる
	II 防災担当者を決めて、防災訓練に参加。部署内で防災に関する問題点を解決できている	防災担当者を決める 防災訓練には必ず参加し、職場会議で共有する
	III 班会・地域の助け合いの活動などに全員が参加できている	要請がきたら、断らない 全員が1回/年に参加できるように、勤務表に組み込む
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている</p>	I 入退院支援加算・患者サポート体制充実加算を算定できるように、人員配置を決めて軌道にのせる	それぞれの力量を把握し、適正を判断し、人員配置を決める(経営考慮)
	II 職場会議で前月の紹介入院数や相談件数を報告できている	職場会議の準備段階から、議事録にのせるようにする
	III 署名0件なし。全員が年に1回は参加できている	署名が届いたら、担当者へ 担当者が責任を持って記載できるように声をかけていく
<p>上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容</p>	I	朝礼・職場会議で積極的な発言・情報共有ができるよう促していく
	II	担当以外の業務にも興味をもつ

DATA

<相談業務>

	件数
4月	889
5月	872
6月	973
7月	820
8月	826
9月	831
10月	825
11月	962
12月	1,000
1月	1,084
2月	892
3月	868

<入院紹介数>

	件数
4月	24
5月	37
6月	40
7月	26
8月	32
9月	29
10月	32
11月	26
12月	30
1月	33
2月	28
3月	32

<外来紹介数>

	件数
4月	28
5月	57
6月	61
7月	57
8月	79
9月	47
10月	80
11月	80
12月	79
1月	66
2月	96
3月	84

医事課

体制

課長：常陸朗広

主任：吉井真奈美 澤田孝美

職員数：21名

主な業務

総合受付業務・入院案内業務・会計業務

レセプト請求業務



病院目標	部署目標	活動内容
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I すべての職員が丁寧な患者対応ができる	患者の名前を呼ぶ前に、受付番号で呼ぶ等個人情報に配慮した
	II 他職種・他部署間との情報共有・連携強化	ベッド調整に使用する資料をより使いやすいものにした CC、委員会等へ積極的に参加した
	III すべての職員が標準的に病院のアピールができるようになる	受付会計時にチラシを配布する等、宣伝した
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I 医事職員としてのスキルを身につける	各種研修に積極的に参加 新たにフードパントリーに参加した
	II 職員間の信頼関係の維持または向上を意識しつつ、協力体制の風土を築く	追加配属になった者は異動したが、他の新人にはそれぞれ業務を振り分けた
	III 担当業務を複数体制にする	担当替えを含み業務の見直しを実施した
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている	I 職場班会を継続する	職場班会を月1回、職場会議の日に合わせて開催した
	II 班会へ積極的に参加する	班会への参加がなかった
	III 災害時の対応がスムーズにできるようになる	防災委員会へ参加し、医事課の役割を確認した
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている	I 予算、ルールは常に新しい情報は共有され皆が同じ目標を持っている	毎月の職場会議で予算達成状況を共有した
	II 予算達成のためにできることを考える	節電にとりくんだ
	III 社保・平和活動や運動に全員が何かしら参加できている（参加が難しければ資料読了や学習を行う）	資料学習にとりくんだ ジャンボリーに参加した
上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容	I 個々の残業時間を短縮させる	担当替えを含み業務の見直しを実施した
	II 人員や業務、役割がバランスよく分散されている	担当替えを含み業務の見直しを実施した
	III 人員体制の変化や新病院以降の影響による超勤時間の増加傾向を減少に転じさせている	担当替えを含み業務の見直しを実施した

DATA

レセプト件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来件数	3,199	3,307	3,323	3,360	3,479	3,463	3,413	3,287	3,492	3,457	3,242	3,382
入院件数	312	326	324	317	324	318	336	321	306	317	302	305

庶務課

体制

課長：佐藤史也

職員数：16名

主な業務

庶務業務全般

(経理・労務・用度・施設・電話交換)

リネン管理

組合員無料送迎



病院目標	部署目標	活動内容
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I 1日あたりの送迎件数を12件/日までもどす	送迎案内チラシをリニューアルし、健康と生活へ折り込む
	II 予約者へ確認の電話かけ	送迎予約された方が受診忘れのないように、送迎前日に電話かけを行う(月曜日は金曜日実施)
	III 送迎利用者の満足向上	予約外の送迎が多く、急な診察、退院などの対応を柔軟に行った
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I 職場会議を毎月実施	毎月定例で1回、その他必要に応じて臨時で行う
	II 年休5日+リフレッシュ休暇4日の取得	休暇の取得が全員できるように、勤務表に組み込み取得状況をチェックする
	III 全員が部署全体の業務を把握する	用度業務を新人2名に担当させた
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている	I マニュアル整備	災害時の病院方針や災害時の指揮命令図の整備が完了した職員用の備蓄食の選定が完了し2024年4月に納品決定
	II 訓練の実施 年3回	防火訓練年2回、防災訓練年1回
	III 防火管理者を2名増やす	人事異動に伴い庶務課から防火管理者の研修者を2名だす
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている	I 経費の削減案を年間3回だす	新年度に向けて費用削減案の提出を行う
	II 署名ゼロをなくす	朝礼、職場会議等で署名の意義を説明してゼロをなくす
	III 職場朝礼にて理念の唱和(毎日)	朝礼時に声を出して全員で読み上げる

DATA

1)受診時の交通手段に困っている医療生協組合員が多く送迎の需要が増えた1年だった。前年比114.9%と大幅増のため運転手の人員体制の調整に苦慮した

2023年度 医療生協組合員送迎実績

3,002件(12.4件/1日平均)(対前年114.9%)

2)2023年度も医療材料費の価格上昇を押さえる事が大変な年度だった。商品の見直しも行ったが、輸入品、人件費の上昇もあり費用が全体で5~10%ほど購入価格が上昇した

3)防災委員会の事務局を行い、南海トラフ地震の備えについて活発な議論を行った。新たに職員用の食材、飲料水を購入し1日2食(3日・250名分)を備蓄その他ポータブル発電機2台、自家用発電機を新設し災害の準備を進めた1年であった

医局事務課

体制

課長：平岡ゆみ
主任：外山玲奈

職員数：6

主な業務

診断書作成支援・医師の労務管理・医局の運営支援・病院図書室管理
退院サマリー管理・全国がん登録・全日本民医連Q1指標
医師研修に関する業務・学生実習受け入れ



病院目標	部署目標	活動内容
<p>◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている</p> <p>◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている</p>	I 研修医に合わせた研修の調整ができる	継続して、研修医、指導医、多職種とのコミュニケーションをとる
	II JCEPを受審し認定基準に達する	受審に向けて医師が主体的に取り組めるように医局事務課全員でサポートする
	III 2023年度医師団会議で医療構想(医師版)が確認される	毎週金曜の医局朝礼での話し合いを継続する 2024/2/3の医師団会議で討議
<p>◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている</p> <p>◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている</p>	I 意見交換、相談しあえる関係づくりがすすんでいる業務の共有	月1回の職場会議の実施、計画的な育成面談(年2回)の実施 朝礼や職場会議で参加した研修についての感想、意見を報告、交流する
	II 5Sの日(毎月5日)を継続し、職場環境が整っている	5Sの日 朝礼で呼びかける
	III 宿日直許可の取得→A水準の適用 正確な医師労働時間の把握	医師の勤怠管理も電子カルテ上でできるよう準備する
<p>◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる</p> <p>◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている</p>	I 地域訪問、支部運営会議、地域清掃への参加ができる	クリーン作戦への参加を継続する フードバンク活動等への参加を継続する
	II 評議員会方針の読了、学習	読了した上で、職場会議で学習の機会を持つ
<p>◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている</p> <p>◆民医連綱領・医療福祉協連・病院理念を中心にした活動が広がっている</p>	I 退院サマリー 1週間以内の作成率100%	現状より1件でも多く作成できるよう医局内の掲示、リスト配布、声掛けを継続する
	II 県連、中四地協、全国で開催される各種交流集会等に必ず1回は参加する(WEBの活用)	参加要請のあるものを職場会議等で確認、参加を支援する 民医連統一会計基準推進士認定試験合格：1名
	III 経費削減ができてきている(節電・節水等)	こまめに電気を消す 部署内利用の書類の印刷には裏紙を使用 IHヒーターでお湯を沸かしてから電気ポットへ

DATA

<書類下書き件数>

書類名	件数
介護保険主治医意見書	527
障害者総合支援法医師意見書	20
生活保護 医療要否意見書・病状調査票 等	1,065
訪問看護指示書	1,030
特別訪問看護指示書	
訪問リハビリテーション指示書	
自賠責診断書	260
自立支援医療(更生医療)意見書	52
腎臓機能障害	

全国がん登録(2022年分) 143件

徳島大学指定学外実習の受け入れ 3名

システム課

体制

課長：近藤慶卓
主任：佐藤博隆

職員数：4名

主な業務

医療情報管理システムの保守管理
ハードウェア及びネットワークのトラブル対応
ホームページの開発・運用

ホームページ <https://kenkou-seikyuu.com>



病院目標	部署目標	活動内容	
◆広報・宣伝を柱に健生病院の医療・介護の内容が組合員を基礎に地域に広く知られるようになっている ◆健生病院で診てもらっているから安心といわれるような存在になっている	I	トラブル、要望に対しての改善に向けての対応時間を短くできるように対応	要望や修繕はその都度対応行った
	II	各職種・部門での負担の軽減や効率化を図れる	電子カルテ内の機能の追加や更新など委員会で情報発信し協議してもらい対応をした
	III	情勢や制度変更に対応できている	関係部署と協力しインボイス制度への対応を行った
◆先を見据え計画的に人材確保、教育がすすめられている ◆地域病院の活動内容の認知が広がり、頼りにされる存在になっている	I	方針や情報が職場内で共有されている	職場会議の開催が滞っている
	II	今後の体制等の検討が進み計画的に体制が確立されている	体制などの議論を少しはできてたが、詰めていない
◆地域組合員との協力・協働で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている	I	定期的増資、ボーナス増資ができている	定期的増資を行った
	II	組織活動への参加	2023年度は参加できなかった
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている	I	機器の購入価格をしっかりと検討・提案できる	購入はなかったが、機器の更新など設置に対しての準備などに関わり設置後の支障がないように対応した
	II	セキュリティの学習、検討をすすめ対策の提案などできている	入職時オリエンテーションで学習会を開催した
上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容	I	ホームページの活用ができている	ホームページをリニューアルし、職員で運用できるようにした

DATA

【職場方針】

- 1) トラブルに迅速な対応をすることで、各部署の業務効率につなげていく
制度改定へのシステムの迅速に対応していく
- 2) 業務の共有や組織方針を確認しシステム関連での各部署との連携に努めていく
- 3) セキュリティに関しての情報収集と検討をすすめ、安定した経営ができるよう提言等していく

【活動実績】

- 1) 電子カルテシステムの保守・障害対応
- 2) ホームページの更新
- 3) 患者調査票作成・提出
- 4) 手術症例報告
- 5) システム・HP委員会事務局
- 6) 院内イントラネットシステム保守
- 7) 施設LAN設定調整
- 8) パソコン・プリンタ修理
- 9) プリンタ消耗品在庫管理・購入

事務部

体制

事務長：加賀美憲司

事務次長：近藤慶卓

職員数：3名

主な業務

院長を補佐し、病院の方針及び基本計画を策定、各職場長を指揮する

事務部門の方針及び基本計画を作成し職務の遂行を指揮する

病院目標	部署目標	活動内容
◆健生病院を受診、利用してよかったと言われるような存在になっている	I 救急受け入れ率がUPし、断らない医療が前進している 日中の受け入れ率増(60%)(現：50.2%) 訪問診療件数 管理数が増えている(2件増を目指す)	入院時より治療・療養計画のもと、早期に退院や紹介などの見通しを立て、病床管理や新規入院の確保につなげる 日中の受け入れ率UPに向け、セカンド対応医師体制を継続 訪問診療増 紹介・外来受診から増やす取り組みの強化
	II 健診受診者数が増え、保健予防活動がすすんでいる ・健診受診者数:3%増	胃カメラ健診体制の変更と充実…4月より予約数12枠増加(第1・3週月各6枠) 職員健診の充実(夜勤、若手健診)→期間内受診の徹底 地域への広報強化…健康づくり事業部と連携(地域訪問等)
	III 来院時および入院時、病院利用時の満足度の上昇 (前年比や全国平均比で上昇)	医福連の満足アンケートの継続と実施数および回収数をあげる(8割以上回収) 満足に利用してもらい、サービス改善に向けて病院独自で患者アンケートに取り組む 病院機能評価中間報告にむけて、評価B→評価Aに引き上げる 基幹病院やその他病院、クリニックなどの訪問を継続(年2回) 無料送迎の充実 資格取得認定にも病院として力を注ぎ、介護保険認定患者も利用できるよう運用を検討 スマホ決済等、キャッシュレス化の検討
◆先を見据えて計画的に人材が確保され、また教育がすすめられている ◆いっしょに働きたいと思ってもらえるような職場になっている	I 職員仲間とともに働きやすく、退職者を出さない職場づくりが進められている 職員のあいさつが徹底されている(笑顔と元気)	心理的安全性の構築がはかれるよう学習(学習会の開催) 接遇マナー講師の定期的な学習会や相談などで接遇改善(改革) 労働改善をはかりながらあらゆる手立てを駆使し医師を獲得
	II 職員体制、人材確保の計画が確認され進められている 業務標準化とマニュアルづくりをすすめ、超過勤務20%の削減を目指す(1人:1時間30分程度→110万円程度の費用削減…概算) 全部門で次世代(幹部育成・職場管理責任者)の育成が進められている JCEP受審にむけて一致団結し計画的に進められている	職場会議の開催を継続実施する 少なくとも年1回は職員育成面談を計画的に実施(意見交換、相談しあえる関係づくりをすすめる) 職場内の環境の整備、見直し 健生病院に残り、次世代育成の観点から、各職場で研修医に職場でしっかりと関わりがもてる取り組みをすすめる
	III ■全職員の働き方改革の対応を確立する ■医師の確保ができ、医師の働き方改革届出のもと、週1回の宿直、月1回の日直が遵守されている	労働軽減のため、タスクシフト、タスクシェアリングへ重きを置き具体化 変化する体制に対し、多職種共同をはかり職場運営を行う 労働基準監督署への届け出とともに管理を継続させる
◆地域組合員との協力・共同で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い(フードバンクなど)が組織され活動が継続されている	I ■地域組織活動目標を達成する 新加入:550件 増資:5,000件 出資金:3,000万円 (2022年度実績 298件/3,139件/1503.3万円 2023/01未現在) 組合員比率UP(入院・外来とも90%以上)→(現:79.9%)	月々の組合員比率を正確に把握し90%を目指す(職員未加入者への働きかけ) 病院組織委員会で進捗を確認、具体的活動が提起できるようにする(委員の再選出、確認と出席率をあげる) 生協強化月間方針を基幹会議にて確認し、職場を中心に行動を具体化
	II 助け合い運動の組織化、計画が進み、病院活動のひとつとして、地域へ発信されスタートしている	職員・組合員と協働で地域(特にいほく)から発信できる活動づくり フードバンクづくりに取り組む (組織化、法人との連携および職員研修、教育に結びつける) 防災マニュアルを完成させマニュアルに沿った訓練を行う(年2回)

◆地域組合員との協力・共同で、組織、健康づくり活動がすすんでいる ◆地域助け合い（フードバンクなど）が組織され活動が継続されている	III	班活動を中心とした地域活動活動への意識が高まり行動に結びついている	事業所利用委員会の定例化と意見交換で地域とのつながりを強める…部署へフィードバック 各部署で班会参加をすすめ地域とのつながりを強める(四半期ごとの参加計画を立てる)
◆必要利益に基づく経営予算を達成することへのこだわりが強まり、実績につながっている ◆民医連綱領・医療福祉生協連・病院理念を中心とした活動が広がっている	I	必要利益の考えのもと予算突破へのこだわりをもち医療・介護がすすめられている 収益(入院:24億5,500万円 外来:8億1,603万円 保健予防:7,882万円 通所リハ:(+訪問リハ):4,763万円 経常剰余 7,108万円	毎月の振り返りと、予算乖離の原因調査→対策の提示と徹底 各運営会議、ベッド調整会議等のさらなる充実と対応の共有化
	II	各部署で確認した件数、患者数目標を守りやりきる 費用管理は予算内での執行をめざす	管理とともに自部署の活動、業務を振り返り次期へむけて確認・検討できるようにする 消耗品費、水道光熱費の削減を全職員ですすめる
	III	行動提起や研修、運動、教育は、おろそかにせずに計画し実践する	基幹会議への提起を欠かさない (要旨の説明、意義の訴えなども短時間でできるものは行う) 時間をみつけ、学習時間等をもつ 2024改定を見据えた情報収集や学習をを事務部、医事課で発信
◆地域助け合い運動がすすんでいる ◆活動内容が認知され、職員獲得につながっている	I	地域・組織活動が活性化し、新規組合員、増資額が計画通りすすんでいる	外来待合、フロアでの新加入、増資運動を計画し実践 (毎月の組合員活動デー) 健康生協、地域組合員活動について再学習
	II	必要な職員確保(医師・看護師等)ができています	ホームページの活動内容を各コンテンツの目標を決め更新 (月1回、週1回など)
	III	地域と連携し、災害対策計画が整備されている	四半期ごとに会議を開催(いほく支部と連携)
上記には書いていないが、経年的に継続事項として進めていく内容		◆ホームページを中心とした広報宣伝活動の充実→2023年度5月中旬完成へ ◆医療・介護 活動の実践は他職種協働・連携は基礎であるため継続してすすめる ◆定期的な活動(民医連運動:駅前行動や9条ブラスター)等は意識して継続 クリーン作戦や増資活動も同様 ◆朝礼報告(日報への記入)、職員の健康を守る健診受診はしっかり行う	

DATA

★フードパントリー	10回開催
第1回	6月10日
第2回	7月8日
第3回	8月19日
第4回	9月9日
第5回	10月15日
第6回	11月16日
第7回	12月16日
第8回	1月20日
第9回	2月17日
第10回	3月16日

IV

各委員会 活動実績



感染対策委員会

目的

病院感染管理の方針と関連する提案事項の諮問・決定機関としての役割を担う
感染の予防と低減のために提唱者の役割を努め、承認された感染防止対策を推進することを目的に、ICT・感染対策推進リーダー会と連携して活動を行う

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：野上由起子(看護部)

委員：松田(医局)、鈴木(医局)、渡部(医局)
原田(医局)、加賀美(事務部)
小川(検査科)、生田(薬剤科)

2023年度 活動内容

開催実績：委員会12回、臨時3回

- 1) 薬剤サーベイランス
薬剤の適正使用、広域抗菌薬の長期投与など不適切な使用の有無
- 2) 検査サーベイランス
耐性菌の検出状況(持ち込み、感染)、不適切な使用による薬剤耐性菌の有無
- 3) カテーテル関連血流感染サーベイランス
ターゲットサーベイランス実施し状況把握
病棟ラウンドを実施し介入
マニュアルの見直し
- 4) 院内学習会の開催(2回)
- 5) 感染防止対策加算に関わる地域連携カンファレンスへの参加(4回)
- 6) 徳島県感染症発生動向調査情報の発信(毎週)
- 7) コロナ感染症対策会議(必要時)
- 8) 法人内事業所コンサルテーション
- 9) 手術部位感染対応
- 10) COVID-19クラスター対応
- 11) 感染対策向上加算カンファレンス参加

〈報告〉

COVID-19感染症が5類に移行したが、感染対策にそれほど変化はない。2023年度は結核、SFTS、O-157、疥癬など多種多様な報告が続いたが職員の迅速な報連相によりスムーズに対応ができた

医療ガス安全管理委員会

目的

医療ガス(酸素、麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気)の設備安全管理を図り、患者の安全確保を目的とする

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：佐藤史也(庶務課)、石崎泰人(庶務課)

委員：鈴木(医局)、原田(医局)
渡部(医局)、加賀美(事務部)
野上(看護部)、内藤(看護部)
藤井(5階病棟)、村上(透析室)
勝野(医療安全管理室・リハビリテーション科)
大野(外来)、生田(薬剤科)

2023年度 活動内容

開催実績：1回

- 1) 医療ガス設備の点検、修理
- 2) 保守点検内容と修繕の確認
- 3) 院内講習会(3月)の開催
取引業者による医療ガス講習会の開催

【内容】

病院における医療ガスの基本的知識
医療ガスに関する事故例と原因

倫理委員会

目的

職員が行う医療行為及び医療分野の研究について、倫理指針等に沿って審査する
日常診療の中で起こり得る様々な倫理問題について、患者の人権を擁護する立場から協議し、倫理的配慮を図る

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：加賀美憲司(事務部)

委員：野上(看護部)、木下(看護部)
勝野(医療安全管理室・リハビリテーション科)
島(臨床心理士)
大久保(健康生協組合員)
掘金(弁護士)

2023年度 活動内容

開催実績：3回

- 1)医療専門職が学会等に発表する医療活動に関して、医師、看護師ほか委員による倫理審査を行った
- 2)臨床現場で起こった倫理問題、文書内容等について委員による倫理審査を行った

安全衛生委員会

目的

職場の安全と職員の健康を確保すると共に、快適な職場環境の形成を促進し、健康で働きやすい職場づくりに必要な課題を協議提案する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：加賀美憲司(事務部)

事務局：河井紗代子(健診センター)

委員：村野(医局)
勝野(医療安全管理室・リハビリテーション科)
労働組合代表者 3名

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)健康診断の状況確認
定期健康診断、採用時健康診断
特殊健康診断、夜勤者健康診断
VDT健診、腰痛問診など
- 2)予防接種の状況確認
HBワクチン対象者から希望者に接種
インフルエンザワクチン全職員に接種
- 3)職員ストレスチェック問診票の回収・分析など『高ストレス』結果が出た職員の産業医面談調整
- 4)職場巡視
- 5)学習会の企画
- 6)36協定違反、夜勤協定違反、事故報告と改善協議・労災事故発生状況の把握
産業医面談の調整

医療安全管理対策委員会

目的

徳島健生病院における医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するために必要な事項を定める

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：勝野涼子(医療安全管理室・リハビリテーション科)

委員：鈴木(医局)、原田(医局)
渡部(医局)、加賀美(事務部)
野上(看護部)、内藤(看護部)
大野(外来)、生田(薬剤科)
村上(透析室)

2023年度 活動内容

開催実績：11回

- 1) 病院内の問題点の把握、事故分析・予防対策の検討
- 2) 医療事故再発防止策の検討、マニュアルの見直しと作成
- 3) 医療安全管理の方針・指針を検討
- 4) 医療事故防止のための啓発・教育・広報活動
- 5) 職員研修の実施
全体研修
前期「心理的安全性」
後期「診療用放射線の安全利用」

注射内服小委員会

目的

注射、内服に関する安全対策を推進する役割を担う
インシデント・アクシデント報告の問題点を把握し、事故分析と再発予防策を検討する
院内での周知を行う

委員会・チーム会議メンバー

事務局：勝野涼子(医療安全管理室・リハビリテーション科)

委員：生田(薬剤科)、太田(3階病棟)
堀谷(4階病棟)、酒井(5階病棟)
楠瀬(別館4階病棟)、岸下(外来)

2023年度 活動内容

開催実績：10回

- 1) 医療事故事例の検討・分析を行い対策を立て職場で周知している
- 2) 看護師に対して注射内服に関する業務の自己点検を毎年行い、マニュアルの遵守に努めている
- 3) マニュアル等の見直しと改定
- 4) 日本医療機能評価機構発行
医療安全情報の共有
注射内服に関するインシデント・アクシデント報告：187件
- 5) 混注時、投与時に注意の必要な薬剤一覧を作成

化学療法委員会

目的

安全・安心な化学療法を提供する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：生田佳津(薬剤科)

委員：美馬一(医局)、美馬惇(医局)
吉田禎(医局)
平尾(外来)、友兼(外来)
田川(外来)、山橋(外来)
林(外来)、宮本(食養科)
常陸(医事課)

2023年度 活動内容

開催実績：10回

- 1)2023年度化学療法稼働実績(入院・外来含)
生物学的製剤 239件
化学療法 136件
- 2)新規レジメン登録：なし
- 3)外来化学療法・連携充実加算に関わる研修会の開催(Web)
日時：3月22日 18:00~19:00
内容：「抗がん剤の副作用とその対策」
「化学療法における食事の工夫」

健診プロジェクト委員会

目的

健診の取組みを確認し、信頼される健康診断が提供できるよう関連各部署、職種間で問題点や改善点を検討、協議する
各部署間での周知、取組みの調整を図るとともに病院管理部に提案していく

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：増田容子(健診センター)

委員：近藤(事務部)、吉尾(検査科)
美馬(外来)、杉浦(放射線科)
上田(外来)、河井(健診センター)
伊賀(健康づくり事業部)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)前月の健診センター実績と特徴点などを報告
- 2)当月の健診進捗状況の確認
- 3)健診をめぐる問題点や課題を協議、検討し、提案する

システム・HP委員会

目的

電子カルテシステムを中心とした医療情報システム管理・ホームページなどの管理を行う体制を確立する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：佐藤博隆(システム課)

委員：高原(管理室)、近藤(事務部)
神野(システム課)、菅(システム課)
岩野(放射線科)、生田(薬剤科)
吉野(検査科)、宮本(食養科)
鎌田(リハビリテーション科)
堀江(健診センター)
大野(外来)、常陸(医事課)
大谷(3階病棟)、笠木(医局事務課)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)電子カルテのシステム変更の連絡、周知
- 2)オンライン資格確認システム運用
- 3)ホームページのリニューアル
- 4)セキュリティ学習を開催(4月、12月)し
情報セキュリティの重要性を説明
- 5)VPN器機の脆弱性対応
- 6)院内のwifi機器のパスワード変更

診療情報管理委員会

目的

適切な診療記録の管理を行う体制を確保

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：笠木瑞穂(医局事務課)

委員：岸田(医局)、生田(薬剤科)
大野(外来)、大谷(3階病棟)
岩野(放射線科)、吉野(検査科)
宮本(食養科)、堀江(健診センター)
鎌田(リハビリテーション科)
近藤(事務部)、常陸(医事課)
佐藤(システム課)、菅(システム課)
神野(システム課)

2023年度 活動内容

開催実績：2回

- 1)退院サマリーの質的監査の報告(2件/月)
医局会議でも報告
- 2)長期署名システムの運用について
病歴に提出される「スキャン済み文書削除
申請書」の統計(文書別・部署別)を作成し、
当該部署に配布
- 3)患者コメント登録の内容の見直しについて

減点査定委員会

目的

病院における減点・返戻査定を精査し、
保険診療請求業務を円滑に行う

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：福田弘子(医事課)、澤田孝美(医事課)

委員：鈴木(医局)、原田(医局)、渡部(医局)
元山(4階病棟)、平尾(外来)
松本(リハビリテーション科)
澤崎(検査科)、大谷(薬剤科)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)増減点連絡書を基に減点査定の内容・傾向について報告した
- 2)必要に応じて再審査請求を行った
- 3)査定対策について関係部署に情報提供を行った

接遇倫理委員会

目的

徳島健生病院理念に基づき、接遇倫理の獲得と
向上を目的とする

委員会メンバー

委員長：加納亜未(3階病棟)

委員：木下(看護部)、佐藤(外来)
小倉(3階病棟)、近藤(別館4階病棟)
長田(リハビリテーション科)
村上(透析室)、池田(医事課)
前田(5階病棟)、高橋(4階病棟)
近藤(事務部)

2023年度 活動内容

開催実績：9回

- 1)7月外部講師による院内ラウンド実施
10月接遇倫理委員会news第7号発行し、院内ラウンドの結果を提示し改善すべき点、気になった点、素敵だった点を報告し接遇の向上につとめた
- 2)8月を「あいさつ月間」とし、委員が自部署の朝礼時に声かけを週1回程度実施
委員のいない部署は職責者に声かけの依頼をし、意識して取り組めるよう周知
月間終了後は各部署に確認を行った
- 3)外来で外部講師による接遇学習会2回開催
5階病棟で外部講師による接遇学習会1回開催
外部講師に関わってもらい接遇向上を目指す
院内の接遇チェックや指導をしてもらい委員も積極的に学ぶことができた

薬事委員会

目的

医薬品に関わる情報を集約分析し、医薬品の有効性、安全性、経済性を総合的に把握し管理することを目的とする

委員会・チーム会議メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：生田佳津(薬剤科)

委員：美馬惇(医局)、鎌田(医局)
大野(外来)、常陸(医事課)

オブザーバー：桑原(とくしま健康サポート)
柳本(とくしま健康サポート)
藤野(四国医療事業協同組合)

2023年度 活動内容

開催実績：11回

- 1)試用申請薬についての検討：9剤
(内服薬:3剤、外用薬:3剤、注射薬:3剤)
- 2)後発品の検討、切り替え:5剤
(1)後発品使用割合：92.7%(年間平均)
- 3)新薬評価:2剤
(1)ツイミーグ錠500mg
(2)カログラ錠120mg
- 4)フォーミュラリー作成
(1)経口PPI
(2)高カリウム血症治療薬
(3)アンジオテンシン変換酵素阻害薬
(4)アンジオテンシンII受容体拮抗薬
(5)Ca拮抗薬
- 5)医薬品の出荷停止や出荷調整など、供給の問題が継続しており、代替薬の検討などを随時行った

輸血委員会

目的

安全かつ適正な輸血療法を実践するために、輸血療法に携わる各職種から構成し、定期的開催し、輸血療法に関する事項を検討するとともに、改善状況について検証する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：小川由紀子(検査科)

委員：淡井(4階病棟)、湊(3階病棟)
里吉(薬剤科)

2023年度 活動内容

開催実績：6回

- 1)輸血用血液製剤(赤血球液製剤・血小板製剤・新鮮凍結血漿・自己血)および血漿分画製剤(アルブミン製剤)の使用状況と廃棄状況の調査と、適正基準の確認
- 2)血液型・不規則抗体・クロスマッチの件数、輸血前後のHb・PLTの調査、輸血副作用報告の確認
- 3)徳島県赤十字血液センター職員の委員会参加を促し情報提供を受ける
- 4)輸血Web学習を病棟看護師に勧め、アンケートを実施
- 5)輸血同意書の一部改正(血漿分画製剤)
- 6)輸血伝票の変更(製剤別)
- 7)2024年4月から輸血製剤完全Web発注に向けてのマニュアル作成
- 8)徳島県合同輸血療法委員会が4年ぶりに開催され参加した

NST委員会

目的

栄養アセスメントを行い入院患者の栄養状態を把握する
栄養管理が必要な患者に対して、適切な栄養投与方法を検討し栄養状態の改善に努める
職員に対して学習会を開催することで、栄養療法への理解を深める

委員会・チーム会議メンバー

委員長：岸田典子(医局)

事務局：舟本優子(食養科)、宮本志保(食養科)

委員：森本(3階病棟)、坂西(4階病棟)
日浦(5階病棟)、豊崎(別館4階病棟)
鎌倉(リハビリテーション科)
小林(健生歯科)

2023年度 活動内容

開催実績：11回

- 1) コロナ禍のため全職員対象とした学習会等の開催はできなかったが、委員会内で委員会メンバーが講師となり学習会を実施した
8月「嚥下食・栄養補助食品の試食」
12月「経腸栄養時の胃食道逆流と対策」
- 2) 入院時に身体計測を行うことで、低栄養リスク患者に対して速やかに栄養介入ができるようになった
- 3) 手術前や寝たきりの患者に対し、推定身長・推定体重を算出するため身体測定を実施した
- 4) 食欲不振患者に対し、給食で対応可能な食品のメニュー表を用い嗜好調査を実施
- 5) 嚥下造影検査：28回

給食委員会

目的

入院患者への食事提供と栄養管理、ならびに患者への食事相談(嗜好調査等)を適切に行う
また患者全体への健康食の啓蒙活動に取り組む

委員会・チーム会議メンバー

委員長：岸田典子(医局)

事務局：舟本優子(食養科)、宮本志保(食養科)
田尻有紀(食養科)

委員：鹿島(別館4階病棟)
津村(委託会社)、鈴木(委託会社)
矢野(委託会社)、尾方(委託会社)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1) 月報報告(食数、材料費等)、検便結果報告
- 2) 検食簿、虹の箱、患者ききとり等からの意見について検討を行い、食事内容の改善を図った
- 3) 誤配膳や異物混入等の事故報告から、安全な食事提供のため情報共有、業務改善に努めた
- 4) 味付けの見直しや新メニュー、行事食の内容等を検討し、食事内容の向上を図った
- 5) 行事食の実施 17回
委託会社主催のデザート・季節のフルーツの提供実施 11回

臨床検査適正化委員会

目的

臨床検査の管理・運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期することを目的とする

委員会・チーム会議メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：小川由紀子(検査科)

委員：加賀美(事務部)、野上(看護部)
吉野(検査科)

2023年度 活動内容

開催実績：2回

- 1) 臨床検査の精度管理等に関する事項
 - (1) 外部精度管理
日本臨床検査技師会、徳島県臨床検査技師会
日本超音波検査学会画像サーベイ
各種メーカーの精度管理調査の参加と結果報告
 - (2) 内部精度管理
品質保証施設認証制度に準じた精度管理
- 2) 臨床検査の院内項目の導入・廃止に関する事項
 - (1) CPAPのネット管理
 - (2) 品質保証施設認証制度の承認
 - (3) 免疫測定機器リース更新
 - (4) 検査システムサーバーの更新と保守
- 3) 研修など
 - (1) タスクシェアシフト研修の受講5名
(全員終了)
 - (2) 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者
技能講習1名

褥瘡対策委員会

目的

入院患者の褥瘡予防・治癒促進に向けて他職種で関わり、早期治癒を目指す
褥瘡対策に必要な体制(学習・物品・診療計画)を整え改善を図る

委員会・チーム会議メンバー

委員長：美馬惇(医局)

事務局：仁木博子(3階病棟)
大谷眞理子(3階病棟)

委員：舟本(食養科) 山橋(外来)
池村(4階病棟) 齋藤(5階病棟)
國見(別館4階病棟)
山本(リハビリテーション科)

2023年度 活動内容

開催実績：6回

- 1) 褥創回診 1回/週 継続 合計44回
総件数：433件
院内新規発生件数：41件
改善率：15%
改善数：65件
- 2) 毎週金曜日に定期的に褥創回診を行った
新規発生・総件数・褥創改善率などを委員会
で状況把握している
- 3) パラマウントベッドの褥創予防セミナーを
オンラインで学習を行った
作業療法士を中心にポジショニングを検討
し、必要なクッションが少ないため2024年
度に購入を検討
- 4) 別館4階病棟では寝たきりの患者が多いが
褥創発生が少ないことを話し合い、背抜き
グローブを使用し、除圧を行っていたため
院所利用委員会でグローブ作成していただ
き、各病棟の寝たきり患者に使用していく

防災委員会

目的

火災・災害時の防火防災計画の立案、訓練の実施
病院の防災方針を検討する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：佐藤史也(庶務課) 石崎泰人(庶務課)

委員：野上(看護部)、加賀美(事務部)
木下(看護部)、内藤(看護部)
生田(薬剤科)、舟本(食養科)
藤井(5階病棟)、大野(外来)
常陸(医事課)

2023年度 活動内容

開催実績：15回

- 1) 消防訓練:2回/年
防災訓練:1回/年
(1)2023年12月 防火訓練
建物火災の原因や防火管理を学ぶ
防災監視盤の操作や防災設備の使用方法を訓練
消火設備の設置場所の確認と使用方法を訓練
(2)2024年3月 防火・防災訓練
消火栓、消火器を使った訓練を実施
患者避難における基本的な行動を学習し、
災害時の被害報告および対策本部立ち上げ
- 2) 消防計画、消防設備修繕等の計画
- 3) 院内防災マニュアルの改訂について議論
- 4) 南海トラフ地震の備えについて活発な議論を行った。新たに職員用の食材、飲料水を購入1日2食(3日・250名分)の備蓄を行った
ポータブル発電機2台、自家用発電機1台新設

医師研修管理委員会

目的

医師卒後臨床研修に関する次の事項の審議
研修プログラム
研修状況
研修評価
研修修了及び中断
研修の全体的な管理
研修医に関する必要な事項

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：坂本環(医局事務課)

委員：岸田(医局)、鈴木(医局)、野上(看護部)
加賀美(事務部)、大谷(診療技術部)
徳島大学病院医師1名
藍里病院医師1名
徳島市民病院医師1名
川島病院医師1名
むつみホスピタル医師1名
TAOKAこころの医療センター医師1名
つるぎ町立半田病院医師1名
健生阿南診療所医師1名
健生きたじまクリニック医師1名
健生西部診療所医師1名
健生石井クリニック医師1名
徳島健康生活協同組合組合員1名

2023年度 活動内容

開催実績：3回

- 1)2023年度受け入れ研修医紹介
- 2)研修進捗状況共有
- 3)研修評価(PG-EPOC、月間記録、360度)報告
- 4)研修スケジュールと受け入れ先について協議
- 5)2023年度卒後臨床研修プログラムの変更点協議
- 6)医師臨床研修の理念・基本方針を共有
- 7)委員交代の報告
- 8)研修医による研修報告
- 9)指導医・指導者からの評価報告
- 10)医師研修マッチングへの取り組み報告
- 11)NPO法人卒後臨床研修評価機構の調査結果報告
- 12)徳島県による臨床研修病院実地調査の報告
- 13)本委員会名称変更について報告
- 14)本委員会規定の修正について協議
- 15)2年目研修医の修了判定
- 16)2024年度採用者報告
- 17)2024年度開催予定協議
- 18)委員意見交換

無料低額診療委員会

目的

無料低額診療事業に関する情報共有
方針や運用に関する起案作成

委員会・チーム会議メンバー

事務局：近藤慶卓(事務部)

委員：大野(外来)、常陸(医事課)
長田(地域連携相談室)

2023年度 活動内容

開催実績：1回

- 1)申請状況や入院、外来受診の医療費の一部負担金減免金額を確認
- 2)地域連携相談室に相談に来られた方の情報を共有
- 3)徳島県保健福祉部の指導監査対応

医師研修委員会

目的

卒後臨床研修プログラムの検討と調整
研修医、指導医、指導者、研修環境の評価
研修進捗状況の共有・確認とサポート
研修環境向上

委員会・チーム会議メンバー

委員長：美馬惇(医局)
事務局：坂本環(医局事務課)
委員：岸田(医局)、鈴木(医局)、原田(医局)
渡部(医局)、仁木(3病棟)
大野(外来看護)、勝野(医療安全管理室・
リハビリテーション科)
生田(薬剤科)、吉野(検査科)
長田(地域連携相談室)、常陸(医事課)
笠木(医局事務課)
楠藤(民医連医学生担当)
小原(健康づくり事業部)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)オンライン研修説明会報告
- 2)委員の交代報告
- 3)研修スケジュールの調整と報告
- 4)NPO法人卒後臨床研修評価機構の調査準備・学習
- 5)退院時概要の1週間以内完成の意思統一
- 6)対面開催が再開された研修医企画報告
- 7)研修医月間記録と自己評価、指導医・指導者評価報告
- 8)委員から研修医へ評価のフィードバック
- 9)病歴要約及び考察の進捗状況の共有
- 10)研修病院紹介サイト利用の報告
- 11)法人の研修医リクルートページ新設の報告
- 12)研修管理委員会の報告
- 13)研修医の班会講師の報告
- 14)地域住民への医師臨床研修についてのアンケート結果報告
- 15)看護師の臨床研修指導医養成講習会参加要請と報告
- 16)研修医の院内BLS及びACLS訓練講師の打診
- 17)研修医の宿直研修と一般外来研修について協議
- 18)一般外来・救急・宿直研修記録用紙変更報告
- 19)医師臨床研修マッチングの状況共有
- 20)徳島大学医学部生の実習受け入れ報告
- 21)徳島県による臨床研修病院調査準備
- 22)NPO法人卒後臨床研修評価機構調査結果共有
- 23)医師臨床研修センターの創設と医師・研修医・事務配置提起
- 24)2025年度研修プログラムの救急部門研修先追加報告
- 25)総合診療専門研修プログラムの変更共有
- 26)家庭医専門医研修プログラムの学会紹介準備報告
- 27)医師国家試験合格者報告
- 28)研修修了判定報告
- 29)2024年度研修スケジュール検討、決定

感染対策チーム会議

目的

院内感染防止の対策を策定し安全な医療の提供体制を確立する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：野上由起子(看護部)

委員：勝野(医療安全管理者・リハビリテーション科) 小川(検査科)
生田(薬剤科)

2023年度 活動内容

開催実績：10回

- 1)院内で発生した感染情報の掌握と適切な対応を迅速に行う
- 2)医療機関サーベイランスについて評価する
- 3)感染対策マニュアルの作成、改定及び職員教育を行う
- 4)院内ラウンド(1回/2週)を実施し、結果に基づいた改善活動に繋げる
- 5)感染対策のための院外研修参加の呼びかけ
- 6)新型コロナウイルス感染症対策
- 7)新病院における新型コロナウイルス対策
- 8)コンサルテーション
- 9)手術部位感染対策
- 10)COVID-19クラスター対応
- 11)感染対策向上加算カンファレンス参加

病院組織委員会

目的

受診された患者さんに徳島健康生活協同組合の組合員に加入していただく
多くの組合員より出資金の協力を得る

委員会・チーム会議メンバー

委員長：加賀美憲司(事務部)

事務局：近藤慶卓(事務部)

委員：長田(地域連携相談室)、湯浅(外来)
高口(医事課)、木下(看護部)
藤澤(4階病棟)、武田(3階病棟)
久米(リハビリテーション科)
宮本(食養科)、藤田(中材・OP室)
鈴木(検査科)、越智(別館4階病棟)
渡部(5階病棟)、大谷(薬剤科)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)増資金額の病院目標確認と定点到達確認
- 2)組合員新加入数・増資件数・増資金額の部署目標確認
- 3)入院患者及び外来患者の組合員比率の変動確認
- 4)組合員新加入の活動意思統一

事業所利用委員会

目的

当院を受診した患者の代表として、よりよい病院にするための具体的な対策を検討する
投書箱(虹の箱)に出された意見を確認し、改善活動へつなげていく

委員会・チーム会議メンバー

事務局：近藤慶卓(事務部)

委員：川口(健康生協組合員)
北浜(健康生協組合員)
松本(健康生協組合員)
一色(健康生協組合員)
宮本(健康づくり事業部)
野上(看護部)

2023年度 活動内容

開催実績：11回

- 1)投書箱(虹の箱)に出された意見を委員で確認し意見に対する対応を病院管理室に依頼
- 2)返答や対応結果を掲示し、患者および職員への周知

感染対策推進リーダー会議

目的

感染対策チーム会と連携し、感染予防対策と実施と医療従事者の感染管理教育の推進を図ることを目的とする

委員会・チーム会議メンバー

委員長：野上由起子

事務局：野上由起子

委員：湊(3階病棟)、岸本(4階病棟)
大松(4階病棟)、阿部(4階病棟)
酒井(5階病棟)、河上(5階病棟)
吉本(別館4階病棟)、田中(別館4階病棟)
大串(外来)、江川(放射線科)
中川(医事課)、堀尾(地域連携相談室)
私市(デイケア)、岩野(リハビリテーション科)

2023年度 活動内容

開催実績：10回

- 1)各部署の問題点を抽出し連携・情報交換を行った
- 2)自部署における新型コロナウイルス感染症対策のリーダー的立場として活躍した
- 3)年間2回以上開催の病院全体学習会でリーダーが主となり参加者への指導を行った
- 4)吐物処理学習会を自部署でチューターとなり学習会を開催
- 5)自部署のスタッフからの疑問等に事務局と相談し責任を持ち対応した
- 6)ミニ学習会 3回
- 7)病院全体学習会 2回
(標準予防策と疾患別対策(インフルエンザ、結核)公費について、治療薬について、レントゲンの見方について、検査方法について)

コーディング委員会

目的

標準的な診断及び治療方法について院内で周知徹底し、適切なコーディング(適切な国際疾病分類に基づく適切な疾病分類等の決定)を行う体制を確保する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：笠木瑞穂(医局事務課)

委員：生田(薬剤科)、大野(外来)
大谷(3階病棟)、岩野(放射線科)
吉野(検査科)、宮本(食養科)
鎌田(リハビリテーション科)
堀江(健診センター)
近藤(事務部)、常陸(医事課)
佐藤(システム課)、神野(システム課)
菅(システム課)

2023年度 活動内容

開催実績：2回

- 1)2022年度様式1を利用した最投入病名統計について報告
- 2)FIM得点と民医連QI指標18D(2023年分)について報告
- 3)適切なコーディングを行うため、必要に応じて医師会議でも報告し周知

年報編集委員会

目的

徳島健生病院年報を編集、発行する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：西内貴子(医局)

事務局：笠木瑞穂(医局事務課)

委員：佐伯(放射線科)、川上(看護QI室)
青井(検査科)、内田(地域連携相談室)
中田(リハビリテーション科)
近藤(事務部)、領田(医事課)
佐藤(システム課)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)2024年2月に第8号を発行・配布した
- 2)2022年度版より委員会活動報告書とチーム会議活動報告書をまとめて掲載した

医療放射線安全管理委員会

目的

徳島健生病院における医療放射線安全の病院方針の起案、および具体化

委員会・チーム会議メンバー

委員長：江川英志(放射線科)

事務局：勝野涼子(医療安全管理室・リハビリテーション科)

委員：鈴木(医局)、加賀美(事務部)
野上(看護部)、内藤(看護部)
大野(外来)、生田(薬剤部)

2023年度 活動内容

開催実績：1回

- 1)2023部位別CTDIvolのまとめ
- 2)検査依頼時の患者説明と同意
- 3)診療放射線の安全利用のための研修決定事項(全体に周知してもらいたい依頼事項)
- 4)決定事項(全体に周知してもらいたい依頼事項)
 - (1)診断参考レベルに対し当院の線量
頭部CT 62%
胸部CT 23%
胸部から骨盤 33%
腹部CT 28%
 - (2)検査依頼時の患者説明と同意は実施している
 - (3)診療放射線の安全利用のための研修はeラーニングにて学習

看護業務基準委員会

目的

安全で適切な看護が提供できるよう、看護業務基準や基礎看護手順、検査手順の作成、内容の修正をおこなう
その看護が実践されることにより、看護内容の向上と改善に繋がる

委員会・チーム会議メンバー

委員長：藤井浩三(5階病棟)

事務局：平尾美津代(外来)

委員：内藤(看護部)、大谷真理子(3階病棟)
平島(4階病棟)、大和(5階病棟)
小谷(別館4階病棟)

2023年度 活動内容

開催実績：8回

- 1)2023年度下半期より、委員会を毎月開催した
- 2)次回の病院機能評価を見据え、既存の看護業務基準や基礎看護手順、検査手順の見直し
- 3)不足していた看護業務基準や基礎看護手順、検査手順の追加
- 4)更新、追加したマニュアルを周知するため「看護業務基準、基礎看護手順、検査手順」をMyWeb内へリンクさせた
- 5)他の委員会との情報交換と連携の強化に努めた

看護記録委員会

目的

看護記録からケア・プロセスが明確に分かる記録を目指す
統一した用語を用いSOAP型式での記入を確立する
治療方針、ケアに対する看護計画を立案し実践出来るように整備、準備、周知する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：鹿島住子(別館4階病棟)

事務局：大和真理(5階病棟)

委員：林(外来)、矢野(外来)、井出(3階病棟)
森本(3階病棟)、木下(4階病棟)
西岡(4階病棟)、岑(別館4階病棟)

2023年度 活動内容

開催実績：9回

- 1) 学習会開催
 - (1) SOAP型式の書き方についての学習
 - (2) 『裁判事例から学ぶ看護ケアと看護記録』を活用し、書いておかないといけない記録についての学習
- 2) 記録の院内ルールを検討・決定し、周知した
- 3) 記録の監査
 - (1) 各部署の記録の監査を行い、監査結果を『記録委員会からのお知らせ』を配布し統一した
- 4) 各部署からの意見・疑問を検討し、職場にフィードバックした

糖尿病ケアサポート委員会

目的

糖尿病ケアの質向上を目指し、糖尿病ケアに関する情報共有や症例検討、チーム間での連携の強化や周知を行う

委員会・チーム会議メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：川上あき子(看護Q1室)

委員：西内(医局)、西村(健生歯科)
宮本(食養科)、吉尾(検査科)
四宮(リハビリテーション科)
藤井(薬剤科)、金丸(外来)
石田(外来)、大谷(3階病棟)

2023年度 活動内容

開催実績 10回

- 1) 教育入院(クリニカルパス含む)・血糖コントロール入院での療養支援
外来での療養支援
- 2) 糖尿病教室開催(第1・第3木・水曜日)
全22回開催(103名参加)
- 3) 2月8日全体学習会開催
「糖尿病治療薬 最近の動向」40名参加
- 4) 11月世界糖尿病デー啓発活動
外来ホールブルーライトアップ
外来ホールにて啓発チラシ配布
- 5) フットケアの取り組み
 - (1) 外来・透析室フットケア(693件)
 - (2) 教育入院フットケア(32件)
- 6) 糖尿病患者会(たんぼぼ会)活動支援
6月より活動再開
外来にて月刊誌「さかえ」配布
- 7) 糖尿病に関する情報共有と周知
 - (1) 血糖測定器点検 6月～7月
 - (2) 教育入院パス見直し
 - (3) 糖尿病教室見直し

糖尿病看護チーム会議

目的

糖尿病ケアサポート委員会と連携し、糖尿病看護の質向上を目的とする

チーム会議メンバー

事務局：川上あき子(看護QI室)

委員：石田(外来)、大谷(3階病棟)
亀井(4階病棟)、上田(5階病棟)
豊崎(別館4階病棟)

2023年度 活動内容

開催実績：5回

- 1)糖尿病に関する情報共有と各部署への周知
- 2)2月8日全体学習会開催
「糖尿病治療薬 最近の動向」40名参加
- 3)チーム会内でのミニ学習会開催
- 4)外来、透析室、教育入院でのフットケアを実施し、足病変の予防教育やフットケアに対する意識の向上を図った
- 5)教育入院パス・糖尿病教室見直し
- 6)世界糖尿病デー啓発活動
(1)外来ホールブルーライトアップ
(2)外来ホールにて啓発チラシ配布

医療材料委員会

目的

院内で使用する医療材料の新規採用、変更、試用時に安全性、使い勝手、コスト面など多方面から検討し適正な判断を行う

委員会・チーム会議メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：石崎泰人(庶務課用度担当)
中村浩章(庶務課用度担当)
古賀元大(庶務課用度担当)

委員：内藤(看護部)、大谷(3階病棟)
平島(4階病棟)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)2023年度は医療材料の使い勝手や看護師の要望などを十分ヒアリングし、より安全で使いやすい材料の検討を行った
- 2)メンバーに病棟主任が入ったことで、大量消費するディスプレイの材料は使いやすさ価格、安全性の議論がスムーズに行われ、現場の声が反映された

2023年度医療材料取り扱い金額

2億4,548万円(前年比105.2%)

※千円以下切り捨て

クリティカルパス委員会

目的

医療の標準やチーム医療の促進ツールとしてクリティカルパスを準備・周知し、有効活用する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：鎌田光洋(医局)

事務局：内藤江美(看護部)

委員：佐藤(システム課)、天野(3階病棟)
生田(薬剤科)、山橋(外来)
島田(リハビリテーション科)
常陸(医事課)

2023年度 活動内容

開催実績：6回

- 1)整形分野を中心に、クリティカルパスを随時作成し、見直し、修正を行った
- 2)条件付き指示内容の薬剤の見直し、変更を行った
- 3)患者用パス説明書を見直し、修正を行い、術前オリエンテーションで使用継続した
- 4)入院時・手術時の看護情報の標準化(セット化)を適宜修正した
- 5)骨粗鬆症パスの新規作成、修正を行った
- 6)クリティカルパスの適応方法について、見直し修正を行った

医療安全推進担当者会議

目的

各部署で安全対策を推進する重要な役割を担うインシデント・アクシデント報告の問題点を把握し、事故分析と再発予防策を検討する院内での周知を行う

委員会・チーム会議メンバー

事務局：勝野涼子(医療安全管理室・リハビリテーション科)

委員：宮本(食養)、中川(3階病棟)
高木(4階病棟)、秋山(5階病棟)
坂林/豊崎(別館4階病棟)、植田(外来)
吉川(中材・OP室)、渡邊(透析室)
高原(デイケア室)、澤崎(検査科)
西窪(薬剤科)、佐伯(放射線科)
立本(リハビリテーション科)
森(医事課)、内田(地域連携相談室)
佐藤(システム課)、中村(庶務課)
笠木(医局事務課)、藤野(健診センター)

2023年度 活動内容

開催実績：9回

- 1)医療事故事例の検討・分析を行い対策を立て職場で周知している
- 2)年間の取り組みテーマを考え、職員全体に安全管理に関する意識を高めている
- 3)院内ラウンドを行い、医療事故防止に役立っている
- 4)全体研修
BLS訓練
ACLS訓練
心電図学習会

広報チーム会議

目的

- (1)徳島健生病院にて行われる広報活動を、より効果的・組織的に行っていくことで、経営改善につなげることを目的としその方法を発案する
- (2)病院職員にむけて、各部門における専門活動の周知を図る。また外部の医療機関、患者、組合員に向けて、患者確保、サービスの向上を目的とした広報活動の方法を発案する

委員会・チーム会議メンバー

事務局：近藤慶卓(事務部)

委員：河井(健診センター)、上野(放射線科)
鈴木(検査科)、川上(看護Q I 室)
佐藤(システム課)
西村(リハビリテーション科)、
平岡(医局事務課)、舟本(食養科)
長浜(透析室)、津川(地域連携相談室)
河野(別館4階病棟)、河野(医事課)
美馬(外来)、井関(中材・OP室)
中川(3階病棟)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)病院広報誌「にじいろ」発刊(年3回)
- 2)ホームページの記事収集
- 3)広報誌の配布
- 4)院内だより発刊
- 5)院内掲示物の確認・管理

緩和ケアチーム会議

目的

がんなどの生命を脅かす病気を持つ患者・家族(介護者を含む)のあらゆる苦痛の緩和をはかり、少しでもQOLの高い状態でその人らしい生活を過ごせるように多職種で支援する
また、より良いケアを提供するための援助を医療者に行う

チーム会議メンバー

委員長：元山典代(4階病棟)

事務局：近藤文(4階病棟)

委員：佐々木(医局)、舟本(食養科)
山下(薬剤科)、友兼(外来)
長田(地域連携相談室)、宮本(3階病棟)
大谷(4階病棟)
三木(別館4階病棟)
天野(リハビリテーション科)

2023年度 活動内容

開催実績：12回

1)役割

- (1)緩和ケアを多職種協働で実施できるための院内システムを構築する
- (2)緩和ケアカンファレンスを当該部署、担当者で行えるよう援助する
- (3)緩和ケアに関する教育と啓発

2)活動内容

- (1)緩和ケアチーム会1回/月開催
- (2)院内の緩和ケアに関する標準化を図る
- (3)症状マネジメント・コンサルテーション
- (4)患者・家族へのケアとサポート
- (5)緩和ケア実施に関する院内の整備
- (6)緩和ケア評価表見直し・変更
- (7)他職種との連携
- (8)在宅ケアの支援
- (9)地域との連携
- (10)病棟カンファレンスと振り返り
- (11)緩和ケアチーム会の内容の検討と確立
- (12)ニュース発行
- (13)地域連携緩和ケアカンファレンス参加
(チーム会メンバー・4階病棟コアメンバー)
- (14)外部Web研修参加
(チーム会メンバー・4階病棟メンバー)
- (15)広報(にじいろ)掲載
- (16)HP更新
- (17)多職種での共有方法の検討・実施
- (18)リハビリテーション症例発表
- (19)学習会開催
- (20)事例発表検討

3)実績

- (1)他院からの紹介件数：37件(前年度28件)
- (2)看取り対応ケアカンファレンス実施：45件
(前年度28件)
- (3)緩和アンケート聴取：(昨年度27件)

骨粗鬆症対策チーム会議

目的

沈黙の疾患である骨粗鬆症治療への活動
骨折患者の減少
健康寿命の延長
徳島健生病院に骨粗鬆症センターを設立する

委員会・チーム会議メンバー

委員長：野口太嗣(薬剤科)

事務局：野口太嗣(薬剤科)

委員：峯田(医局)
平尾(外来)、山橋(外来)、友兼(外来)
井出(3階病棟)、天野(3階病棟)
池北(4階病棟)、上田(5階病棟)
鎌田(リハビリテーション科)
岩野(リハビリテーション科)
舟本(食養科)
栢田(地域連携相談室)

2023年度 活動内容

開催実績：10回

- 1)5/8～骨粗鬆症センター立ち上げ
- 2)骨粗鬆症に関する算定件数
 - ①二次性骨折予防継続管理料1・2・3
①二次性骨折予防継続管理料1 95件
②二次性骨折予防継続管理料2 9件
③二次性骨折予防継続管理料3 154件
- 3)院内学習会の開催(1回)
4/25「当院の骨粗鬆症診療の取り組み
骨粗鬆症センターの立ち上げ」
- 4)日本骨粗鬆症学会の参加 6名参加
骨粗鬆症マネージャー 3名取得(合計6名)
- 5)啓発活動
 - (1)健診結果にビラを同封
 - (2)世界骨粗鬆症デーにちなんで外来患者に
セルフチェック表を配布
 - (3)班会参加 2回

教育委員会

目的

全職員向けの個人面談計画、評価、集計を行い職員教育をサポートする

委員会メンバー

未決定

2023年度 活動内容

未開催

QI委員会

目的

医療の質向上を図るための各種指標を設定し、当院の医療活動の見える化を行う
各種指標の分析を行い、病院全体の医療の質を向上させる

委員会メンバー

未決定

2023年度 活動内容

開催実績：委員会0回

未開催

看護必要度SP委員会

目的

看護必要度の適切な入力・運用について整備する
学習会を企画する

委員会メンバー

未決定

2023年度 活動内容

開催実績：委員会0回

未開催

V

研究業績



学会発表

	日時	場所	演題名	学会名	発表形式	発表者
医師	2023年9月	名古屋	当院におけるロモソズマブ治療後のデノスマブによる逐次療法の成績	第25回骨粗鬆症学会	口演	峯田和明
	2023年12月	高松	当院におけるexpandable interbody cageの使用経験	第56回中国・四国整形外科学会	口演	峯田和明
	2024年2月	京都	当院におけるbipolar hip prosthesis の治療成績：早期手術と骨粗鬆症治療の重要性についての検討	第54回日本人工関節学会	口演	峯田和明
放射線技師	2023年9月	名古屋	骨密度計測時のポイント機能がBMD、TBSに与える影響の検討	第25回日本骨粗鬆学会	口演	杉浦卓斗
	2023年9月	名古屋	被写体圧と軟部組織脂肪率がTBSに与える影響の検討	第25回日本骨粗鬆学会	口演	杉浦卓斗
	2023年11月	徳島	大腸CTにおけるタギングに硫酸バリウムとガストログラフィンを使用した比較検討	第54回日本消化器がん検診学会 中国四国地方会	口演	岩野晃明 永田浩一 江川英志
	2023年12月	徳島	大腸CT検査の2体位目におけるDeep Learning再構成を使用した被ばく線量低減の検討	第41回徳島CT研究会	口演	岩野晃明 江川英志 赤川拓也 高原文治 安田貴明
理学療法士	2023年10月	福岡	足関節両果部骨折後の回内症候群の症例	第11回日本運動器理学療法学会 学術大会	ポスター発表	岩野巧
	2023年10月	徳島	フレイルを合併した高齢2型糖尿病要支援者に対する通所リハビリの短期的効果	第34回徳島県理学療法士学会	口演	清水一成

講演会

	日時	場所	演題名	講演会名	講演者
医師	2023年6月	徳島	当院におけるロモソズマブの使用経験と逐次治療について	骨粗鬆症治療WEBセミナー	峯田和明
	2023年8月	徳島	当院におけるBKPの治療経験	徳島大学脊椎外科カンファレンス	峯田和明
	2024年1月	徳島	大腿骨骨折周術期における骨粗鬆症治療	第3回 大腿骨骨折治療ネットワーク研究会	峯田和明
放射線技師	2023年5月	Web開催	バリウムを使った失敗しない前処置と失敗しない大腸拡張	第4回 茨城大腸CT研究会	岩野晃明
	2024年2月	Web開催	大腸CT検査における読影のポイント	第1回 日本大腸CT技術研究会	岩野晃明

論文

題目	共著者	掲載誌名	巻ページ等
当院におけるテリパラチド週2回製剤の治療経験	峯田和明、岡田正彦	中国・四国整形外科学会雑誌	2023年35巻1号p.65-69
当院におけるセメントレスTKAの術後成績 NRG CR型とTriathlon CR型の比較検討	峯田和明、松本壮司、岡田正彦	日本人工関節学会誌	2023年53巻 p.417-418

その他

学会名	場所	内容	演題名など
第9回中四国スクリーニングCTC研究会	愛媛	座長	CTCの新しい風潮

2023年度医療介護活動・運動交流集会

日時	日時：2023年10月7日 13：30～
開催場所	とくぎんトモニプラザ
テーマ	「気候危機について」～私たちにできること～
参加人数	51名
講演	講演：「脱炭素でいのちと健康を守ろう」 講師：佐藤由美（環境ジャーナリスト）
SGW（1）	① 二酸化炭素排出量の計算をやってみよう！
	② 講演を聞いての感想交流
	③ 職場や家庭で明日から取り組むこと
SGW（2）	数年後に取り組むこと

第31回看護介護活動研究交流集会 2023年12月10日（日）

会場：徳島大学 総合科学部1号館

テーマ：人権を守る看護・介護 サブテーマ：「reunion 再会～コロナ禍を乗り越えて～」

演題	部署	発表者
利用者が地域で共存していくために 地域からの苦情に対して行った支援を振り返って（指定演題）	健生さわやか在宅介護支援センター	三村和美
多職種で叶えた自宅退院と支えた看取りまでの時間（指定演題）（*）	徳島健生病院 4階病棟	大松陽香 淡井明日香
デイサービス利用者確保に向けての取り組み	健生阿南診療所	新居謙
DWIBS（ドゥイブス）健診のまとめ（*）	徳島健生病院 健診センター	河井紗代子
レクリエーションでみんな笑顔に	とくしま健生デイサービスセンター	大松俊介
夕方の余暇時間の充実を図って（*）	徳島健生病院 5階病棟	後藤崇作
認知症ケアの基本と理解	健生石井老健うぐいす	近藤美砂子
病院訪問活動から「地域における健生病院の役割を考える」23年度版（*）	徳島健生病院 地域連携相談室	津川博美
終末期の利用者さんに関わって	とくしま健生訪問看護ステーション	井澤路子
短時間デイケアにおけるリハビリテーションが身体機能・体重に及ぼす効果について -直近6ヶ月間の検討-（*）	徳島健生病院 デイケア	四宮涼太
小児科クリニックでの発熱外来の取り組みについて	健生きたじまクリニック	佐藤典子
就学支援について	とくしま健生ヘルパーステーション	高田由美子
新型コロナ感染者数と救急要請件数の関係（*）	徳島健生病院 外来	佐藤章子
ぽつんと一軒家に住む人の看護にかかわって	西部健生訪問看護ステーション	大池真生
術後ADL破綻した患者さんにチームで寄り添って（*）	徳島健生病院 3階病棟	石橋恵 天野愛美
患者訪問からの学び（*）	徳島健生病院 中材・OP室	井関真理

演題	部署	発表者
栄養漏れによる皮膚トラブルを防ぐためのチームでの取り組み (*)	徳島健生病院 別館4階病棟	小谷直美
患者に合った透析を行うために (*)	徳島健生病院 透析室	岸野由幹
楽しみを持ったデイケア利用	石井クリニックデイケア	宮本ふさみ
ひとをみる ～想いに寄り添うとは～ (*)	徳島健生病院 4階病棟	板東雅
独居生活の認知症患者と関わって	健生西部診療所	向井町子
ケアマネージャーと成年後見制度 ～介護現場から問題点と今後の課題を考える～	健生かがやき在宅介護 支援センター	入江正浩

注：(*)は徳島健生病院

院内全体学習会

開催日	学習会名	主催
2023年4月27日	MRI学習会	医療安全管理対策委員会
2023年6月29日	心理的安全性について	医療安全管理対策委員会
2023年6月～10月（各部署で開催）	BLS学習会	医療安全管理対策委員会
2023年10月4日・12日・19日	ACLS学習会	医療安全管理対策委員会
2023年12月9日	心電図学習会	医療安全管理対策委員会
2024年3月	後期全体学習会 「診療放射線について」レポート形式	医療安全管理対策委員会
2023年8月28日	標準予防策 疾患別（インフルエンザ、結核）公費について、治療薬について、レントゲンの見方、検査方法	感染対策推進リーダー会
2023年8月28日	セキュリティ学習会	システム委員会
2023年4月25日	当院の骨粗鬆症診療の取り組み 骨粗鬆症センターの立ち上げ	骨粗鬆症対策チーム会
2024年2月8日	糖尿病治療薬 最近の動向	糖尿病ケアサポート委員会

VI

病院活動



専門的な治療について

専門外来

【内科】

睡眠時無呼吸症候群(SAS)外来	2005年 6月開設
診療日	毎週水曜日 9:00~12:00 14:00~17:00 毎週木曜日 14:00~18:00
担当医師	林和廣 中野万有里
担当スタッフ	看護師 臨床検査技師
診療内容	睡眠状況解析 指導
患者数	40~50名/月
SAS検査数	29件
CPAP件数	114件
CPAP患者数	59名

禁煙外来	2013年 4月開設
診療日	毎週木曜日 14:00~18:00
担当医師	林和廣
担当スタッフ	看護師
診療内容	治療 禁煙指導 メンタルケア

呼吸器外来	2019年 5月開設
診療日	毎週木曜日15:00~18:00
担当医師	今井正雄 林和廣
担当スタッフ	看護師 臨床検査技師
診療内容	呼気NO分析検査 治療 生活指導
患者数	80~100名/月

糖尿病教室	2010年 4月開設
診療日	第1・3水曜日 14:00~14:30
担当スタッフ	医師(内科・眼科・歯科) 糖尿病看護認定看護師 糖尿病療養指導士 看護師 臨床検査技師 薬剤師 管理栄養士 理学療法士

フットケア外来	2015年 4月開設
診療日	月~金 午前中 月~木 午後
担当医師	内科医師
担当スタッフ	糖尿病看護認定看護師 糖尿病療養指導士
診療内容	フットケア指導 実践
患者数	30~35名/月
フットケア年間のべ回数	400件

【外科】

ストーマケア外来	2019年11月開設 2023年12月休止
診療日	第3週木曜日 9:00~12:00
担当医師	美馬惇
担当スタッフ	ストーマ認定士
診療内容	術前ケア 術後のメンタルケア セルフケア指導
患者数	3~4名/月

【整形外科】

骨粗鬆症外来	2019年 4月開設
診療日	毎週木曜日 9:00~12:00
担当医師	峯田和明
担当スタッフ	看護師 薬剤師 理学療法士 管理栄養士 事務
診療内容	検査 治療 指導
患者数	160~180名/月

2023年度 主な行事

〔病院・デイケア〕

<2023年>

4月 入職式 新入職員オリエンテーション

5月 メーカー集会

6月 医療安全全体学習会 健康生協総代会 CPC（病理検討会） BLS学習会
5Sラウンド

7月

8月

9月

10月 医療・介護活動交流集会

11月 防火訓練 安全（転倒）ラウンド（11月～12月） NPO法人卒後臨床研修評価機構訪問調査

12月 看護介護活動研究交流集会 臨床研修病院実地調査

<2024年>

1月

2月

3月 医師団会議 医療安全全体学習会 防火・防災訓練

〔通年行事・活動〕

- ・ 9条プラスター宣伝（毎月9日）
- ・ 「9条改憲NO!」宣伝（毎月3日・19日）
- ・ 原発ゼロイレブン行動（毎月11日）
- ・ 消費税増税反対早朝宣伝行動（1回/月）
- ・ 組合員100%デー（毎月平日の10日・20日・30日）
- ・ 地域クリーン活動（毎月平日の10日・20日・30日）

※地域連携懇談会 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止

徳島大学医学部指定実習(指定学外実習Ⅰ・Ⅱ)

実習期間	種別	実績	学年
2024年 1月 9日～2月 2日	指定学外実習Ⅰ	1名	5年生
2024年 2月13日～3月 8日	指定学外実習Ⅱ	2名	5年生

理学療法学生実習

実習期間	種別	実績	学年
2023年 5月 8日～6月30日	総合臨床実習	1名	3年生
2023年 7月24日～8月18日	総合臨床実習	1名	4年生
2023年10月30日～11月17日	評価実習	1名	3年生
2024年 2月19日～2月22日	見学実習	1名	1年生
2024年 2月26日～2月29日	見学実習	1名	1年生

管理栄養士実習

実習期間	種別	実績	学年
2023年 6月19日～6月23日	臨地・校外実習	2名	4年生

医学生実習

体験期間	内容	実績	学年
2023年 7月17日	回診同行・医師懇談・研修医同行	1名	4年生
2023年 7月19日	研修医同行・訪問看護・総合診療外来	1名	3年生
2023年 8月 9日	回診同行・内科外来・小児科クリニック	1名	4年生
2023年 9月15日	内科外来・病棟CC・リハ同行・多職種見学	1名	1年生
2023年12月22日	病院見学・整形外科外来・OP・研修医懇談	1名	5年生

入学前医師体験

体験期間	内容	実績	学年
2023年 3月 7日	病院見学・外来診察学・病棟回診・カンファレンス・コメディカル見学	1名	新1年生
2023年 3月 7日	病院見学・外来診察・小児科（診察・乳児検診）	1名	新1年生

高校生医師体験（夏休み）

体験期間	内容	実績	学年
2023年 8月 1日	SpO ₂ ・病院見学	3名	1～3年生
2023年 8月 2日	SpO ₂ ・病院見学	2名	1年生

高校生医師体験（春休み）

体験期間	内容	実績	学年
2024年 3月25日	内視鏡室見学・手洗い・聴診器・血圧計・SpO ₂ ・病院見学	4名	新3年生
2024年 3月26日	外来診療見学・手洗い・聴診器・血圧計・SpO ₂ ・病院見学	3名	新2～3年生
2024年 3月27日	外来診療見学・手洗い・聴診器・血圧計・SpO ₂ ・病院見学	4名	新2～3年生

高校生医師体験（春休み）（続き）

体験期間	内容	実績	学年
2024年 3月28日	外来診療見学・手洗い・聴診器・血圧計・ SpO ₂ ・病院見学	4名	新2～ 3年生

2023年度 班会講師要請状況

部署・職種別講師要請数	
部署・職種	要請数
リハビリテーション科	12
看護師	10
管理栄養士	3
薬剤師	2
検査技師	2
眼科スタッフ	2
放射線科	2
研修医	1
健診センター	1
地域連携相談室	1
合 計	36

開催日	支部・班名	部署・職種	テーマ
1/17	臘梅班	薬剤科	サプリメントについて
1/18	茜・すみれ	リハビリテーション科	転倒予防・肩こり予防体操
1/18	常三島和の会班	リハビリテーション科	肩こり予防体操（15～20分）
2/9	八兵衛班	リハビリテーション科	座ってできる体操
2/15	柴田学童班	看護師	子供の怪我時の対応
2/21	かがやき班	看護師	不眠症
4/28	沖洲支部 支部総会	看護師	感染予防に気を付けた日常の過ごし方
5/18	茜・すみれ	看護師	骨粗鬆症のお話し
6/8	健生リハ班	リハビリテーション科	2型糖尿病と薬物療法
6/29	田宮春日支部	リハビリテーション科	座ってできる体操
7/10	飲茶班	リハビリテーション科	下肢の運動
7/19	かがやき班	研修医	認知症予防
8/23	砂川・阿部班	地域連携相談室	生活や健康で困った時の相談
8/25	八兵衛班	眼科スタッフ	なみだ目の話
8/30	たんぼぼ班	看護師	しびれの話
9/11	飲茶班	リハビリテーション科	膝の直し方
9/20	コスモス班	検査技師	肺年齢について
9/20	臘梅班	管理栄養士	高齢者の食事について
9/21	中田・すみれ	リハビリテーション科	ストレッチ体操
9/21	中田 すみれ班	リハビリテーション科	ストレッチ
9/21	茜・すみれ	看護師	腎臓について(働き、どんな病気があるか)
9/27	たんぼぼ班	看護師	神経痛の話
9/29	八兵衛班	管理栄養士	バランスの良い食事
10/5	青向班	検査技師	血管年齢の話
10/16	飲茶班	看護師	免疫を高めるために
10/18	コスモス班	放射線科	骨密度検査の話
10/18	かがやき班	眼科スタッフ	白内障
10/25	たんぼぼ班	リハビリテーション科	転倒予防体操
11/1	立椋班	リハビリテーション科	転倒予防体操
11/16	茜・すみれ	リハビリテーション科	フレイルについて
11/22	コスモス班	健診センター	脳ドックについて
11/29	たんぼぼ班	薬剤科	睡眠薬について
12/20	オリーブ班	管理栄養士	減塩おせち作り
3/13	コスモス班	看護師	くも膜下出血について
3/22	八兵衛班	放射線科	DWIBS健診について
3/29	沖洲支部 支部総会	看護師	骨粗鬆症について

患者会活動

【たんぽぽ会】

コロナ禍で活動中止していましたが、2023年6月より活動再開しました。
調理実習・学習会・お花見会など、毎月集まり各種行事を行っています。
体験談や日頃の悩みを語りあったりしながら、仲間と楽しく交流しています。

<活動趣旨>

- 1.糖尿病患者相互の親睦と交流を深め、励ましあって良好な血糖コントロールを目指す
- 2.学習会・調理実習・レクレーションなどを通して、糖尿病に対する意識を高め、積極的に治療や療養に参加できるようになる

6月 総会

7月 学習会「熱中症予防と飲料水の注意点」

9月 学習会「サルコペニアと糖尿病」

10月 ウォーキング（田宮公園）

11月 世界糖尿病デー啓発活動

12月 調理実習&忘年会

2月 2023年度総会

3月 お花見（田宮公園）



徳島健生病院だより



はじめに

地域・組合員のみなさまに当院のことを身近に感じ、より一層知っていただくことを目的として、徳島健生病院だより「にじいろ」を発刊している。

医療コラム、部署紹介、ストレッチやレシピなどのほか、病院の多彩な活動をお知らせする内容となっており、2016年の新年号より創刊し、年4回発行、2019年度から年3回発行している。

院内各所に設置して来院される方に配布、地域の組合員のみなさまには、徳島健康生協機関紙「健康と生活」とともにお届けしている。

また、地域の診療所、病院、施設など126ヵ所に送付しているほか、近隣の店舗や保育園、公共施設などへ設置させていただくことで、地域とつながる「病院だより」を目指している。

発行実績（2023年度）

発行日	記事内容	
vol.25	巻頭	2023年度 新入職員を迎えました
	コラム	当院における脳神経外科診療について
	部署紹介	中材・OP室
	新任医師紹介	内科・総合診療科 村上尚嗣医師
Vol.26	巻頭	転んで骨折する前に！ 徳島健生病院・骨粗しょう症センター
	コラム	上手なお酒の飲み方
	部署紹介	透析室
	新入研修医紹介	渡部京介医師 原田玄奈医師
Vol.27	巻頭	2023年度救急医療功労者知事表彰をいただきました！
	コラム	小児から大人の発達障害
	部署紹介	糖尿病ケアサポートチーム
	医師紹介	内科・総合診療科 門田美由香医師

◆次ページより：Vol.27を掲載



2023年度救急医療功労者知事表彰をいただきました！

2023年度救急医療功労者知事表彰に、徳島健生病院が選ばれました。

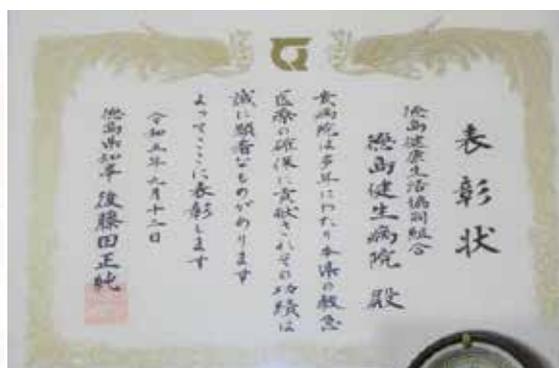
9月12日に県庁で表彰式があり、後藤田正純知事より表彰状と記念品をいただきました。

健生病院は1981年に救急告示医療機関に認定され、新型コロナウイルス禍を含む過去5年間で年間平均約1,000人の救急患者を受け入れました。

昨年度の受け入れ患者数1,282人は、県内の病院で9番目に多い人数となっています。



表彰状を受け取る松田副院長



表彰状と記念品の時計



受賞のことば

院長 佐々木清美

このたび、2023年度救急医療功労者知事表彰を当院が拝受いたしました。夜間の受け入れ件数が多いこと、広域からの受け入れ、そして救急隊員の方々からのご推薦もあり表彰していただいたと伺っております。身に余る光栄であり、関係者の方々に深く感謝申し上げます。

当院は、これまで2次救急医療機関として地域医療を守りたいとの思いのもと、軽症から重症の患者さんの受け入れに努めてまいりました。できるだけお受けする方針としておりますが、夜間は当直医1名、外来看護師1名の対応となりますので、やむなくお断りする事例や、当院での対応が困難と判断して3次救急医療機関に紹介となる事例もあります。

その中には一刻を争う状況の患者さんを適切な高次治療に結びつけられたことも数多くあり、受け入れてくださる医療機関の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

近年、新型コロナウイルスの蔓延により、救急要請件数の増加と発熱患者さんの受け入れ困難事例の増加で、以前にもまして救急体制が逼迫しているとの印象を持っております。

その中で、今後とも微力ではありますが、地域を守る救急医療の実践に努め、当院の役割を果たしてまいりたいと思っております。

小児から大人の発達障害

内科・総合診療科 堀内宏美



最近よく耳にするようになった発達障害という言葉。それは、親の育て方や本人の性格の問題ではなく、生まれながらの脳の機能の障害です。外見からは障害と分らず、「わがまま」「自分勝手」「空気が読めない」と責められ、大人になってうつなどの精神疾患をもつ方もおられます。そのため、早期に障害に気づき、本人も親も周りの方々も、どうすれば生きやすくなるかを本人目線で考えていく必要があります。幼少期からの適切な関わりや教育によって子どもの状態は変わります。彼らは自分に正直で、裏表が少なく実直で、たくさんの良さを持っています。その良さに気付けばお互いに幸せに生きていくことができます。だからこそ、まずは知って下さい。ご自身のこと。ご家族のこと。

①発達障害とは？

右の図のように、症状は障害のタイプによって大きく異なります。障害が重なる場合もあり知的障害の程度も様々です。

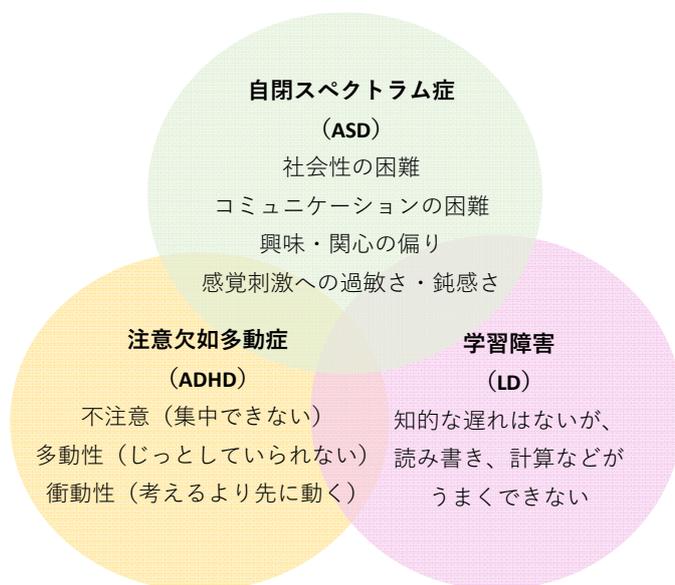


表1 発達障害の分類

②発達障害の診断

様々な状態を示し、健常者であっても似た状態が現れるため、一回の診察で診断されるものではありません。

当院では、①生育歴 ②学校や職場での様子 ③本人、家族からの聞き取り (問診) を行い、発達検査なども考慮に入れ、数回の診察ののち診断を行います。

③治療

治療は「治す」のではなく、彼らに合った育て方や教育の仕方をまず親が学ぶこと。そして、理解できる方法で一つ一つ丁寧に教えることが大切です。大人の方には、自分の特性や良さ、困難なことへの対処法について知ること。そして、周囲の人に自身の傾向を理解してもらうことが必要です。

例えば、①早朝ウォーキング・山歩き ②料理 ③個別課題学習 (学び) は、幼児から成人のどの年齢層の人にも心豊かに生きる礎となります。

診察時には、どのような育て方や教育の仕方が必要か、お一人お一人に具体的にお伝えしています。お気軽にご相談ください。

●発達外来 (要予約) 毎週水曜 午前

※お問い合わせは内科外来まで

徳島健生病院 TEL 088-622-7771 (代表) 13:30~17:00 (月~金)

部署紹介【糖尿病ケアサポートチーム】

糖尿病の治療は、食事療法や運動療法などのセルフケアの継続がもっとも大切です。当院では、内科医師、眼科医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師で構成している糖尿病ケアサポートチームを中心に日常生活のサポートを行っています。最近では内服や注射などの治療薬も多種多様です。2023年4月から糖尿病専門医村上尚嗣医師による糖尿病専門外来が開設となり、患者さん一人ひとりに合った治療方法が選択できるようになりました。また、眼科医師、歯科医師とも連携をとりながら治療を行っています。糖尿病教室も定期的に開催しており、村上医師による糖尿病教室は次回1月18日の予定です。その他にも、糖尿病教育入院、フットケア外来、患者会活動など各種療養支援を行っています。



糖尿病専門医による糖尿病教室
糖尿病の合併症について学習しています



糖尿病ケアサポートチーム



たんぽぽ会（糖尿病患者会）活動
お花見の風景



たんぽぽ会（糖尿病患者会）活動
調理実習の風景

●糖尿病専門外来（要予約）
毎週木曜日 14：00～16：30

●糖尿病教室（村上医師）（予約不要）
次回 1月18日（木）14：00～14：30

※お問い合わせは内科外来まで

徳島健生病院 TEL 088-622-7771（代表）13：30～17：00（月～金）

門田 美由香医師

私は2017から2018年の2年間、徳島健生病院で初期研修医として所属していましたが、2023年の10月から再び健生病院で働いています。当時の病院を知っているぶん、新しくきれいに建て変わった病院に驚きました。しかし、働いているスタッフの中には見知った顔も多く、地域の患者さんに親身に接している姿をみて、変わらないところも沢山あると思いました。さらに、医局は昔の東病院に存在しているため、当時と変わらない年数を感じさせる壁や共有トイレに郷愁を覚えます。今は山下先生と内視鏡検査を担当しています。これまで関わってくださった先生方のご指導を忘れず、安全で患者さんに負担の少ない内視鏡検査を行っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



診療時間表

	月			火			水			木			金			土	
	午前	午後	夜間	午前													
①午前 9:00~12:00																	
②午後 14:00~17:00																	
③夜間 17:00~18:00																	
内科・総合診療科	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○
整形外科 月・水・金は 10:00までの受付	○			○	予約		○			○			○				
外科 夜間 16:30~17:30	○		○	○			○			○			○		○		
眼科 午後 15:00~17:00 土曜は第1・第3のみ	○	○		○			○	○		○	○		○	○			○
脳神経外科 木曜は第1・第3のみ				○			○				○		○				
健診センター	○			○			○			○			○				予約

◆ 医師体制表は健生病院の窓口でお渡ししています

◆ 急患の方は時間外でも診療しています

専門外来 (要予約)

発達外来	水曜	午前
呼吸器外来	水曜	午後
禁煙外来	水曜・木曜	午後
ストーマ外来	第3木曜	午前
骨粗鬆症外来	木曜	午前
糖尿病外来	木曜	午後
睡眠時無呼吸外来	木曜	午後



友だち登録をお願いします！

徳島健生病院

〒770-8547 徳島県徳島市下助任町4丁目9

T E L : 088-622-7771(代表)

ホームページ : <https://kenkou-seikyoku.com>



医師名簿（50音順）

【内科・総合診療科】

[常勤医]

阿部潤一	日本内科学会認定医 日本神経学会神経内科専門医	日本病院総合診療医学会認定医 臨床研修指導医 インフェクションコントロール ドクター（ICD）
今井正雄	日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 臨床研修指導医 日本医師会認定産業医 日本医師会かかりつけ医 総合診療領域特任指導医 （プログラム統括責任者） 家庭医療専門研修 プログラム責任者	村野栄一 日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 臨床研修指導医 日本医師会認定産業医 総合診療領域特任指導医
岸田典子	日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 臨床研修指導医 （プログラム責任者） 総合診療領域特任指導医 （プログラム統括責任者） 日本病院総合診療医学会認定医	山下英世 日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 臨床研修指導医 総合診療領域特任指導医
古川民夫	日本医師会認定産業医 日本医師会かかりつけ医 徳島県医師会糖尿病認定医 徳島県医師会認定学校医	
中野万有里	日本内科学会認定医 日本内科学会総合内科専門医 臨床研修指導医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本感染症学会感染症専門医 日本結核病学会抗酸菌症認定 医・指導医 インフェクションコントロール ドクター（ICD）	
松田知子	医学博士 日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 総合診療領域特任指導医	

医師名簿（50音順）

【内科・総合診療科】

[非常勤医]

遠藤健 日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医

大倉佳宏 日本プライマリケア連合学会専門医・指導医
臨床研修指導医
家庭医療専門医
産業医科大学認定産業医

田中宏実 臨床研修指導医

林和廣 日本臨床内科医会認定医
日本プライマリケア連合学会認定医・指導医
日本医師会認定産業医
日本禁煙学会認定禁煙専門指導者
日本禁煙科学会認定上級禁煙支援士
総合診療領域特任指導医

堀内宏美

吉田全夫 臨床研修指導医
日本医師会認定産業医
日本糖尿病協会療養指導医

吉田勇人 日本外科学会認定医
日本医師会認定産業医
日本医師会認定健康スポーツ医
日本体育協会認定スポーツドクター

森敬子

【外科】

[常勤医]

佐々木清美 日本外科学会専門医
日本外科学会専門研修指導医
麻酔科標榜医
臨床研修指導医
検診マンモグラフィ読影認定医

美馬惇 日本外科学会専門医
臨床研修指導医

美馬一正 日本外科学会専門医
日本外科学会専門研修指導医
日本消化器外科学会認定医
麻酔科標榜医
臨床研修指導医
日本医師会認定産業医
検診マンモグラフィ読影認定医

[非常勤医]

吉田禎宏 日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器癌外科治療認定医
麻酔科標榜医
臨床研修指導医

医師名簿 (50音順)

【整形外科】

[常勤医]

峯田和明 医学博士
日本整形外科学会専門医
日本脊椎脊髄症学会脊椎脊髄外科指導医
日本人工関節学会認定医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本骨粗鬆症学会認定医
日本整形外科学会リウマチ医
日本整形外科学会運動器リハビリテーション医
臨床研修指導医

鎌田光洋 日本整形外科学会専門医

[非常勤医]

岡田正彦 日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会スポーツ認定医
日本整形外科学会運動器リハビリテーション医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本リウマチ学会専門医
リウマチ財団登録医
日本脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医・指導医
日本整形外科学会認定研修指導者
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
脊髄モニタリング認定医
臨床研修指導医

[非常勤医]

松本壮司 日本整形外科学会指導医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本リウマチ財団登録医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本体育協会公認スポーツドクター

医師名簿（50音順）

【眼科】

[常勤医]

西内貴子 医学博士
日本眼科学会眼科専門医
臨床研修指導医

[非常勤医]

佐藤志乃 医学博士
日本眼科学会眼科専門医

【脳神経外科】

[非常勤医]

藤本尚己 医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

【心療内科】

[非常勤医]

鳥海和広 日本精神神経学会精神科専門
医・指導医
日本医師会認定産業医
精神保健指定医

【透析科】

[常勤医]

岸田典子 日本プライマリケア連合学会
(再掲) 認定医・指導医
臨床研修指導医
(プログラム責任者)
総合診療領域特任指導医
(プログラム統括責任者)
日本病院総合診療医学会認定医

【放射線科】

[非常勤医]

神原康夫 日本医学放射線学会放射線診断
専門医
日本医師会認定産業医

部署別資格取得一覧

【外来】

上田美香	消化器内視鏡技師
幸田史恵	日本糖尿病療養指導士 徳島県糖尿病療養指導士 糖尿病重症化予防「フットケ ア」研修修了
友兼愛子	日本骨粗鬆症マネージャー
平尾美津代	徳島県糖尿病療養指導士 医療リンパドレナージセラピス ト 日本骨粗鬆症マネージャー

【病棟】

天野愛美	認知症ケア専門士
池北美佐子	日本骨粗鬆症マネージャー
大谷眞理子	日本糖尿病療養指導士 徳島県糖尿病療養指導士 糖尿病重症化予防「フットケ ア」研修修了
鹿島住子	認定看護管理者教育課程ファー ストレベル
亀井愛深	徳島県糖尿病療養指導士
木下佐代子	徳島県糖尿病療養指導士
國見由香利	日本ストーマ認定士 臨床スキンケア看護師 オムツフィッター2級
小松万裕	徳島県糖尿病療養指導士
近藤大作	介護職員等による痰の吸引等研 修事業研修修了 認知症介護実践者研修修了

【中材・OP室】

戸村美奈	第二種滅
藤田葵	第二種滅

【透析室】

牧野智和	透析技術 呼吸療法
村上正二郎	透析技術 呼吸療法 MDIC認定 徳島県糖尿病療養指導士
吉見優美	透析技術認定士

【看護部】

木下敬子	認定看護管理者教育課程ファー ストレベル
内藤江美	認定看護管理者教育課程ファー ストレベル
野上由起子	感染管理認定看護師 認定看護管理者教育課程セカン ドレベル

【医療安全管理室】

勝野涼子	医療安全資格者
------	---------

【看護QI室】

川上あき子	糖尿病看護認定看護師 日本糖尿病療養指導士
-------	--------------------------

【検査科】

小川由紀子	緊急臨床検査士 日本糖尿病療養指導士 精度管理責任者育成講習修了
尾崎眞弓	徳島県糖尿病療養指導士
澤幸代	二級臨床検査士(血液学)
吉尾章智	超音波検査士(循環器領域)
吉野貴子	超音波検査士(消化器領域) 超音波検査士(循環器領域) 精度管理責任者育成講習修了 乳房超音波技術講習修了

【放射線科】

池村和雄	検診マンモグラフィー撮影認定 診療放射線技師
岩野晃明	X線CT認定技師 大腸CT検査技師
上野美涼	検診マンモグラフィー撮影認定 診療放射線技師
江川英志	大腸CT検査技師

部署別資格取得一覧

【リハビリテーション科】

安部つかさ	徳島県糖尿病療養指導士
天野晋	徳島県糖尿病療養指導士
小倉陽平	回復期リハビリテーション協会 認定セラピストマネージャー 福祉住環境コーディネーター 1級
蔭西亮	徳島県糖尿病療養指導士
鎌倉めぐみ	リー・シルバーマン・ボイス・ トリートメント(LSVT LOUD)
四宮涼太	認定理学療法士：代謝 日本糖尿病療養指導士 徳島県糖尿病療養指導士
西村直華	徳島県糖尿病療養指導士
松本由紀子	介護支援専門員

【食養科】

田尻有紀	健康運動指導士 徳島県糖尿病療養指導士
舟本優子	徳島県糖尿病療養指導士

【薬剤科】

生田佳津	日本医師会医療安全推進者
大谷知子	日本老年薬学認定薬剤師 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
野口太嗣	骨粗鬆症マネージャー
山下展之	日本静脈経腸栄養学会NST専門 療養士

【デイケア】

澤村ゆかり	徳島県糖尿病療養指導士
森優子	介護プロフェッショナル キャリア段位制度 アセッサー

【地域連携相談室】

内田順子	介護支援専門員
津川博美	徳島県糖尿病療養指導士
長田聖	介護支援専門員 健康運動指導士
堀尾千裕	認知症ケア専門士
枘田栄子	認知症ケア専門士 認知症ケア指導管理士 介護口腔ケア指導管理士 住環境コーディネーター2級 障害者スポーツ指導員初級

【庶務課】

石崎泰人	第2種ME技術者 毒物劇物取扱責任者 福祉用具専門相談員
------	------------------------------------

【医事課】

常陸朗広	甲種防火管理者
------	---------

【医局事務課】

笠木瑞穂	診療情報管理士
------	---------

【システム課】

佐藤博隆	医療情報技師
神野高朗	医療情報技師

【事務部】

加賀美憲司	甲種防火管理者講習
近藤慶卓	介護支援専門員

編集後記

2023 年度年報も無事発刊することができました。今回も各部署や委員会などのご協力、ありがとうございました。

2023 年度は 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、様々な規制も緩和され新しい局面となりました。当院でも面会の緩和等されましたがまだまだ気を緩められず、感染拡大の芽の発生時も教訓を生かした対応を、と心がけるものの正解はないようでした。

様々な対面での活動も再開し始めましたが、職員同士やいろいろな人とひさしぶり～と喜び合うとともに、なにか勝手が違い、壁があるように思います。

さて、今回の年報は、記事投稿の負担を軽減し、より早い時期の発刊をめざして、紙面を一新しました。活動の状況、私たちの今はお伝えできているでしょうか？斬新なアイデアをとりいれながら、改良していきます。

今後も病院職員それぞれが理念のもとに日々基本方針を具体化しつつ医療活動に取り組んでまいります。

2024 年 10 月 吉日

年報編集委員長 西内貴子

